

2014年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

13

新潟大学教育学部

教育学部年報2014目次

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 「フレンドシップ実習」の概要	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 学習支援ボランティア派遣事業及び関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 インターンシップ	
・ 学校インターンシップ	
・ 企業等インターンシップ	
2.10 各課程の特色ある教育活動	
2.11 中高生などの大学見学	
3. 就職支援	27
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年生向けキャリアガイダンス	
3.4 公務員・企業ガイダンス	
3.5 臨時教員志望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教員採用・就職活動バス支援	
3.8 教育学部就職情報ホームページ	
3.9 教職サポートルーム	
4. 学部FD	43

5. 地域貢献	44
5.1 12年研修	
5.2 市民・教員を対象とした公開講義	
5.3 教育委員会との連携協定	
5.4 新潟大学免許法認定公開講座	
5.5 委員等就任状況	
6. 国際交流	51
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
7. 附属施設の活動	57
7.1 新潟小学校	
7.2 新潟中学校	
7.3 特別支援学校	
7.4 幼稚園	
7.5 長岡小学校	
7.6 長岡中学校	
8. 外部資金	73
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄付金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	
9. 教員・教育研究業績	75

〔巻末資料〕

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

1. イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	7日	新潟大学入学式, 教育学部新入生保護者懇談会
	8日	教育学部学年別ガイダンス (1年次, 3年次), 大学院教育学研究科新入生ガイダンス
	9日	教育学部学年別ガイダンス (2年次, 4年次)
	10日	介護等体験事前指導
	11日	第1学期開始
	13日	黎明祭
5月	24日	教員採用試験支援プログラム (教採に向けた教職教養)
	2日	教採合格ガイダンス (4年次学生向け)
	12日	教員採用試験支援プログラム (特別支援教育, 教育心理学: 全2回) (~5/26)
	14日	教員採用試験支援プログラム (理科実験, 体育実技, 音楽実技, 美術実技, 家庭科実技) (~8/20まで随時実施)
6月	22日	教員採用試験支援プログラム (教員採用検査合格者 (卒業生) による模擬授業の見学)
	2日	新潟大学永年勤続者表彰式, 春期教育実習 (~6/13)
	19日	教員採用試験支援プログラム (小論文指導), 教育学部後援会役員会
	21日	大学院教育学研究科現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	26日	新潟大学名誉教授称号授与式
7月	28日	教育学部後援会理事会・総会
	30日	教員採用試験支援プログラム (模擬授業: 全6回) (~7/7)
	5日	新潟市立小・中学校教員採用検査 (第1次検査) (~7/6)
	6日	新潟県公立学校教員採用検査 (第1次検査)
	9日	教員志望者向けガイダンス (2年次学生向け)
	12日	東京都教採バスツアー (~7/14)
	16日	民間企業志望者向け就職ガイダンス
	18日	愛知県・名古屋市教採・就活バスツアー (~7/20)
	19日	教員免許状更新講習 (~10/26)
	25日	教職12年経験者研修 (~8/22)
	31日	第1学期定期試験 (~8/6), 免許法認定公開講座 (~10/26)
8月	6日	教員採用試験支援プログラム (面接, 場面指導)
	10日	新潟大学オープンキャンパス (~8/11)
	11日	夏期休業 (~9/30)
	18日	学校図書館司書教諭講習 (~8/28)
	21日	新潟県公立学校教員採用検査 (第2次検査) (~8/24)
	22日	新潟市立小・中学校教員採用検査 (第2次検査) (~8/24)
9月	3日	大学院教育学研究科入学試験
	8日	観察参加実習 (~9/12)
	17日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
	22日	秋期卒業式
	25日	キャリア支援ガイダンス (2年次学生向け)
10月	30日	全学就職総合ガイダンス
	1日	秋期入学式, 第2学期開始
	2日	教員採用試験受験者向けガイダンス (3年次学生向け)
	18日	新潟大学Week 2014 (~10/26) ※ 新大祭, 書道パフォーマンス「新大レポリユール!!」, パフォーマンスアート
11月	27日	秋期教育実習 (~11/7)
	14日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	25日	教育実習運営協議会
	20日	公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー
12月	29日	推薦入試 (学校教員養成課程, 健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試, 養護教諭特別別科入学試験
	9日	三条市教育委員会と教育学部との連携協議会
	12日	東京の学校見学会バスツアー支援 (全3回) (~2/21)
	16日	推薦入試 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程), 社会人特別入試合格者発表, 養護教諭特別別科入学試験合格者発表
	19日	教員採用試験支援プログラム (教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス)
1月	24日	冬期休業 (~1/6)
	7日	授業開始
	15日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	17日	大学入試センター試験 (~1/18)
2月	27日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験
	4日	第2学期定期試験 (~2/13)
	9日	推薦入試 (学校教員養成課程) 合格者発表
	12日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験合格者発表
3月	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (~2/26)
	3日	教員採用試験支援プログラム (教採に向けた教職教養: 全4回) (~3/17)
	8日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	11日	春期休業 (~3/31)
	10日	教育学部後援会理事会
	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	22日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
	23日	新潟大学卒業式, 教育学部卒業祝賀会

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《 附属新潟中学校 》

《 附属特別支援学校 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	7	着任式, 始業式, 入学式	8	第1学期新任式, 始業式
	25	全校参観日	9	新入生歓迎会	9	入学式
			22	全国学力・学習状況調査	16	高等部3年生修学旅行(東京・横浜方面)～18日
			23	生徒総会	18	中学部遠足, 高等部1・2年生校外学習
5	24	附属大運動会	10	ときわ体育祭	25	PTA総会
	29	中条自然教室(4年)(～5/30)	23	すなやま完歩大会	1	対面式
					2	小学部遠足
					13	第1回避難訓練
6	2	春季教育実習(～13日)	2	春期教育実習(～13日)	16	中学部ミニ運動会
	6	全校角田登山	10	新潟市体育大会(～11日)	23	春期教育実習事前観察・直前指導～24日, 前日準備
	18	全校参観日	23	演劇鑑賞教室	24	運動会, 入門教育実習①, PTA懇親会
			26	新潟地区陸上大会(～27日)	2	春期教育実習～13日
7	18	1学期終業式	2	新潟地区各種大会(～3日)	4	歯科検診, 公開講座Ⅰ-①(親支援プログラム)
	22	佐渡自然教室(5年)(～24日)	10	通信陸上大会	16	高等部インターンシップ期間～7月4日
	29	市陸上記録会	14	全学年懇談会(～17日)	19	音楽鑑賞会
			22	1学期終業式	24	学校説明会①
8	5	新潟市水泳記録会	25	県総合体育大会(～26日)	30	学校説明会②
					2	公開講座Ⅰ-③
			6	北信越総合体育大会(～7日)	3	中学部校内宿泊学習～4日
			17	全国中学校体育大会(～25日)	11	保護者救急法講習会, 懇談会
9	1	2学期始業式	14	全学年懇談会(～17日)	16	公開講座Ⅰ-④(親支援プログラム)
	8	立山自然教室(6年)(～12日)	22	1学期終業式	18	第1回学校評議員及び学校関係者評価委員会合同会議
	8	2年次観察参加実習(～12日)	25	県総合体育大会(～26日)	24	第1学期終業式
10	2	クロスカントリーinははの森	3	新潟市総合体育大会	21	高等部登校日～23日, 入門教育実習②
	18	附属ミュージアム	16	教育研究発表会	22	全校登校日
	27	秋季教育実習(～11月7日)	27	秋期教育実習(～11月7日)	23	卒業生を囲む会
11	22	附属ミュージックステーション	9	学校説明会	17	入学者選考日
			22	音楽のつどい	19	小・中なかよし運動会
					21	入学許可者公示
					26	三校合同避難訓練
12	6	新1年生入学選考(9日)	1	全学年懇談会(～5日)	27	秋期教育実習事後観察
	19	2学期終業式	4	生徒会立会演説会	28	PTA奉仕作業, 給食試食会, 学部懇談会
			5	生徒会役員選挙	5	別科1日観察実習
			13	入学選考検査(～14日)	12	第37回 特別支援教育研究会
1	8	3学期始業式	20	合格発表	22	第2学期終業式
			22	2学期終業式	24	冬季休業～1月7日
			7	3学期始業式		
			27	3学年進路懇談会(～29日)		
2	5	初等教育研究会(～6日)	3	2学年沖縄の旅(～6日)	8	第3学期始業式, 交通安全指導(～13日)
	25	高学年スキー授業(～26日)	19	1学年東京巡検(～20日)	13	新入生保護者説明会
					14	介護等体験⑩(～15日)
					16	高等部スキー・そり教室
3	5	6年生を送る会	3	同窓会入会式	31	すなやま祭, 同窓の集い
	20	3学期終業式	6	第67回卒業証書授与式	6	小学部そり教室
			9	公立高校一般選抜検査	10	中学部体験入学
			16	3学期終業式	12	高等部体験入学
		25	離任式	13	小学部体験入学, 中学部スキー・そり教室	
				20	高等部進路学習会	
				27	通級指導教室事例発表会	
				4	第3回学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議	
				6	小学部6送会, 中・高3送会, 懇談会	
				11	査定会, 生徒指導会議	
				18	卒業証書授与式	
				19	第3学期終業式	
				25	離任式	

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
7	着任式, 始業式, 入学式	7	着任式, 始業式, 入学式, 1年PTA入会式	7	1学期始業式
15	全校仲良しの会	8	2・3年PTA, 学校運営説明会	8	入園式
16	全校学習参観日	10	学友会入会式	18	こんにちわの会
		18	PTA・後援会総会		
9	研究会事前打合せ	2	クラスマッチ①	28	校園合同教育研究協議会
28	教育研究協議会	14	学友会計画総会	29	親子バス遠足
		22	都市陸上大会(～23日)		
		28	教育研究協議会		
2	春期教育実習(～14日)	2	春季教育実習(～13日)	2	春期教育実習(～13日)
17	初任者研修①	3	市内各種大会(～4日)	14	家族参加日(土曜参観)
18	校園合同避難訓練	16	オープンスクール・進路説明会	17	プール開き
23	全校学習参観日(心の教育)	26	中越地区陸上大会(～27日)	23	PTA講演会(講師:高橋桂子園長)
24	栖吉川フェスティバル				
3	4年サマースクール(～4日)	2	中越地区各種大会(～3日)	4	七夕会
3	わくわく遠足	5	地区懇談会	16	1学期終業式
7	6年三者面談(～8日)	22	成果を語る会		
12	オープンスクール・学校説明会	25	県総合体育大会(～26日)		
22	1学期終業式	27	中越地区吹奏楽コンクール		
23	5・6年立山自然教室(～25日)	28	保護者面談(～30日)		
29	家庭訪問(～31日)				
7	親善水泳大会	4	北信越大会(～7日)	28	2学期始業式
27	2学期始業式	9	県吹奏楽コンクール		
		17	全国中学校体育大会(～25日)		
		21	県内附属合同研修部会		
		24	PTA校園整備活動		
		25	抱負を語る会, 授業開始		
		30	学校説明会		
6	校園大運動会(校園合同)	6	校園大運動会	6	校園合同運動会
8	観察参加実習(～12日)	8	観察・参加実習(～11日)	8	観察参加実習(～12日)
16	初任者研修②	25	都市新人陸上大会	19	交通安全教室
17	避難訓練②				
18	親善陸上大会(6年)				
26	マラソン記録会				
20	願書受付開始	8	新人各種大会(～9日)	1	園内探検
20	学習参観日	17	中間検討会	7	探検遠足
27	秋期教育実習(～11/7)	20	中間検討会	23	入園選考日(～24日)
		27	秋期教育実習(～11/7)	27	秋期教育実習(～11/7)
		30	音楽発表会		
12	親善音楽会(6年)	3	市P連インディアカ大会	15	作品展
15	校内音楽会	10	オープンスクール・進路説明会	19	音楽鑑賞会
19	願書受付締切	13	生徒会役員選挙		
28	仲よしフェスティバル	28	学友会総会		
29	入学選考検査				
2	選考検査結果発表	3	3年三者面談(～4日)	16	餅つき
3	個別懇談(～5日)	10	クラスマッチ②	18	2学期終業式
19	2学期終業式	13	入学者選考検査(結果発表19日)		
		18	成果を語る会		
8	3学期始業式	7	抱負を語る会	8	3学期始業式
13	全校学習参観日	22	1年研修旅行(東京)(～23日)	13	かるた大会
14	避難訓練③			27	そり遠足
16	3・4年スキー(第2回・22日)				
28	1・2年そり遠足				
12	5・6年スノースクール(～13日)	7	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
17	一日入学	12	公立高校特色化選抜検査	13	一日入園
18	学習参観(1～3年)	18	2年修学旅行(～20日)		
19	学習参観(4・5年)	27	3年生を送る会		
26	ありがとう仲良しの会				
17	3学期終業式	6	卒業証書授与式	3	ありがとうの会(5歳児への感謝の会)
18	115回卒業証書授与式	9	公立高校一般学力検査	12	3学期終業式
		19	終業式	13	第114回保育証書授与式
		26	離任式		

2. 特色ある教育活動

2.1 新潟大学教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要

No.	名称	主要対象 学年	担当組織	開始年度	内容	目標	実施時期、 期間
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。	通年
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。	通年
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1) 佐渡市立河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3) 地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。	通年（実習は9月集中）
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 （現在の体制による実施開始年度）	(1) 附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。	9月、5日間
5	教育実習 （主専攻、副専攻）	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。	春期・秋期、各2週間、総計4週間
6	研究教育実習	4年次生、大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。	通年
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める	通年
8	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。		通年
9	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。		8～1月
10	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。		通年
11	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。		通年
12	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。	通年

関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	58名	「教育実践体験研究Ⅰ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」（文部省（当時）、平成9年度開始）に連動する授業科目として設定（「教育実践体験研究」）。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	129名	「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目（教育実践研究関連科目）により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
佐渡市立河崎小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	5名	5名	「教育実践体験研究Ⅳ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2) 新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
附属学校（4校）		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計305名	「教育実習事前・事後指導」（2単位、学校教員養成課程においては必修）の一環を構成	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
附属学校園、協力校園 総計（のべ）219校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計（のべ）844名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
附属学校、協力校	特に設定しない	24名(大学院生1名、他学部生1名を含む)	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」（3年次対象）および「総合教育実習」（4年次対象）を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	126校、252人(派遣要請総数)	96校、137名 (大学院生8名、他研究科生1名含む、新潟青陵大学・県立大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位） 平成17年度より新設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成（カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」）。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8) 平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。
新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	6校、8名	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計6校（新潟、有明台、内野、笠木、五十嵐、西内野）に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	22名 (のべ33名)	特に設定しない	見附市立見附小学校、名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、新潟小学校、今町小学校、南中学校、西中学校、見附特別支援学校（総計9校）に対して、主として、8月～10月に実施された補充学習（国語、算数等）、自然教室、水泳指導等に学生を派遣した。
三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	4校、5名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立三条小学校、嵐南小学校、月岡小学校、第四中学校（総計4校）。 (2) この他、「わくわく科学フェスティバル」（8月）、三条市中学校音楽祭（11月）、子育て支援課「放課後子ども教室」、中央公民館「ふれあい自然体験ボランティア」（8月）に対しても、それぞれ、3名、3名、5名、6名（17名）の学生を派遣した。
燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	32名 (のべ180名)	特に設定しない	小学校6校（燕南小、燕北小、小池小、吉田小、吉田北小、分水小）と中学校3校（小池中、燕中、吉田中）の学習支援（授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援）に派遣した。小池中、燕北中へは、部活動の補助に派遣した。市教育委員会の事業（小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に2名派遣した。
附属学校園、協力校園	特に設定しない	4名	「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、選択必修、2単位）	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」（研究科共通科目、必修、2単位）の一環として実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で18年目を迎えた。おもに、教育学部学校教員養成課程1，2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである）。

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、昨年度同様に計4コース（募集人数50名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られるようになった。最終的な単位認定を必要としない学生で、リピーターとして参加している2年次以上の学生も数名みられるようになった。

今年度の概要を以下の通りまとめたので、詳細はそちらをご覧ください。

平成26年度「フレンドシップ実習」概要

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生数
① グループ体験コース	松井賢二	個別実習9月中 全体実習8月22日	ひまわりクラブと連携し学生企画の遊びで交流を図る	ひまわりクラブ	16名
② 子どもふれあいスクール体験コース	大平淳一	1学期から毎週、定期的・継続的に学校を訪問して実施している。	市教委と連携し放課後や土曜日上午中に学校施設内で子どもと遊び等を通してふれあう	内野小学校 新潟小学校 有明台小学校 五十嵐小学校 笠木小学校	8名
③ 自然科学実体験コース	宮菌 衛	5月から12月まで計7回（土曜日） 8月「宇宙教室」	NPO法人星空ファクトリー主催科学実験講座の補助、JAXA協力	NIC新潟大学前 新潟大学	20名
④ 中学生キャリア教育コース	宮菌 衛 大平淳一	8月、11月、2月の計3回	中学生との交流を通して、キャリアを考える手助けをする	子ども自然王国 青葉台中学校	13名
全体発表会	松井賢二 宮菌 衛 大平淳一	12月24日（水） 午後	各コースの活動を発表する全体会を学生主導で実施	教育学部 204講義室	約60名

2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて16年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。平成26年度においては、実習協力校12校3園、学部教員35名、実習校教員15名の受け入れ・指導体制によって実施した。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は151人、受入者は129人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～12名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ態勢の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	15名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	12名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	15名
(D) 幼稚園訪問コース	15名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	12名

上記の体制により、学生は、5月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

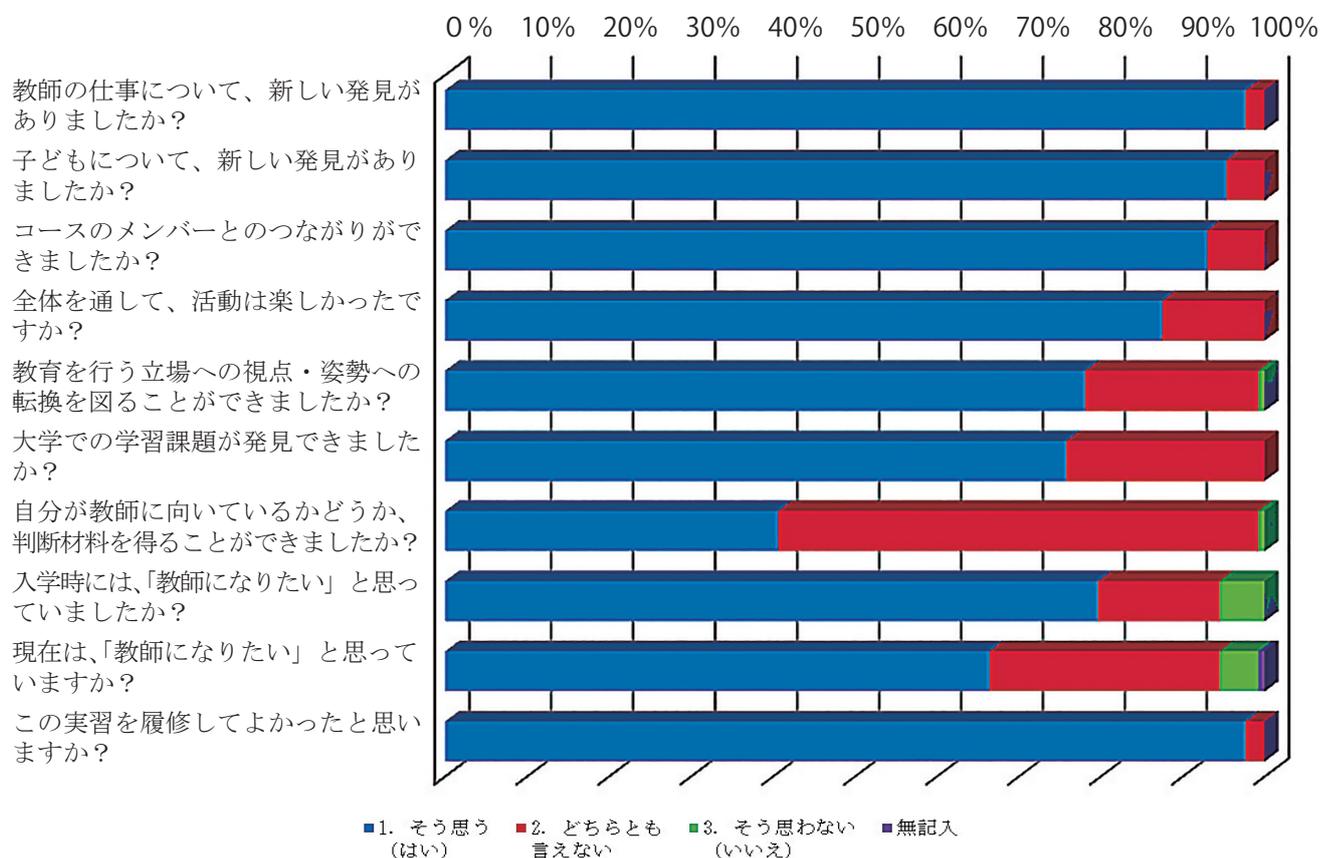
教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員4名、過去の履修経験者（4年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

3. 学生の動向

平成26年度における学校教員養成課程の入学者は225人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は151名、履修希望者は148名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、67.1%、65.8%にあたる。最終的な受入学生数は129人であり、これは履修希望者の87.2%にあたる。

平成 26 年度においても、報告会の機会を利用して、「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数 128 名、回収率 99.2%）。結果の一部を次に示す。

グラフ 「入門教育実習」の成果と課題に関するアンケート調査より



4. おわりに

「入門教育実習」については、『1 年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 (第 16 年次)』(新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編、2015 年 3 月)に報告している。学部のホームページにも、その一部を公開している。合わせてご参照頂ければ幸いです。



実習風景 (附属長岡小学校)



実習風景 (分水中学校)

2.4 佐渡実習

1. 佐渡実習とは

佐渡実習とは、入門教育実習の活動を基本として発展させたものである。地域の活動を加えることにより、学校内の活動と地域の両方を体験し、地域から児童生徒を見ることの出来る教員を育てることを目的とする。佐渡は集落毎に異なった祭りを持つ、祭りの盛んな地域で学校と地域の結びつき付きも強い。そこで、佐渡の学校と、その地域の祭りを体験することにより、教員と地域の人々の両面から子どもたちと接するという企画である。

2. 今年の佐渡実習

昨年立ち上がった「佐渡実習」は、今年2回目を迎えた。久知八幡宮例大祭が9月15日に開催日が毎年固定されていることと曜日の関係から、昨年より1日多い、9月11日(木)～15日(月)の4泊5日で行った。参加学生は男子2名、女子3名の計5名で大平、森下の2人で引率指導した。また現地では、昨年同様佐渡市立河崎小学校の先生方と佐渡芸能伝承機構 松田祐樹氏に指導をお願いした。また、祭りの主体である城腰の方々にもたいへんお世話になった。

行程は次の通りである。

- 9月11日(木) 移動と河崎小佐渡市立学校での挨拶
- 9月12日(金) 河崎小学校での活動、佐渡学受講、授業見学、5、6年生と交流との交流
城腰公民館にて花笠踊り稽古の見学
- 9月13日(土) 大佐渡研修（石名天然杉、史跡佐渡金山見学）と花笠踊り稽古の見学
- 9月14日(日) 小佐渡研修（大膳神社能舞台や宿根木等見学、たらい船体験、八幡地区と松ヶ崎地区の祭り：鬼太鼓見学）
- 9月15日(月) 久知八幡宮例大祭（見学、参加、祭りに参加している子どもたちの支援）

佐渡島内での研修は、昨年の文化的内容に加え、大佐渡の自然観察も出来たことがよかった。学生たちは、真摯に子どもたちや地域の人々とふれあい、佐渡の文化を吸収して多くのことを学んだようである。



八幡地区で祭りに参加する学生



花笠踊り本番で子どもに声をかける学生

2.5 「研究教育実習」

—教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成26年度においては、国語科、家庭科、数学科、理科、美術科の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成26年度においては、12月16日に、学習会『「研究教育実習」の現状と課題』が開催され、数学科と家庭科の実践事例が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(XI)』(2015年3月)に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
小久保 美子 (言語文化コミュニケーション講座・国語科教育)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、1人)	卒業研究において、小学校国語科におけるICTを活用した学習指導の在り方について研究を行った。小学校4年を対象に、「連詩をつくろう」の単元を設定し、グループで協働して動画を用いた連詩を創り鑑賞し合う授業を構想し、新潟大学教育学部附属新潟小学校で検証授業を行った。	附属新潟小学校4年2組、11月、全5時間
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、3人)	卒業研究において、中学校家庭科の学習内容及び指導方法に関して検討を行い、その内容の一部を授業として具現化し実証的に検討した。実施授業の題材名は「地域の子育て支援について考えよう」、「自分にできる防災にチャレンジしよう」、「みんなが暮らしやすい社会を考えよう」であった。	(1)新潟市立内野中学校、1年5組、11～12月、4時間 (2)新潟市立中野小屋中学校、3年1組、11月、3時間 (3)長岡市立宮内中学校、1年4組、11月、3時間
垣水 修 (自然情報講座・幾何学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、2人)	卒業研究において、小学校算数科の学習課程における十進位取り記数法の位置づけについて再検討をおこない、その考察に基づいた教材開発をおこなった。さらに十進位取り記数法を題材とする授業実践を、附属新潟小学校において行い、授業分析を行った。	附属新潟小学校、第2学年1クラス、10月、2時間
土佐 幸子 興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)	該当なし* (2年次5人、3年次5人、4年次5人、教育学研究科の大学院生1人、理学部生4年次1人、農学部生3年次1人)	理科4科目の授業実践力の向上を目的とする。参加者全員で1カ月以上かけて授業内容の検討、教材開発、模擬授業などを行い、授業実践する。準備期間には、実習先教員と、生徒の既習事項や現状について打ち合わせも行った。 実践後には実習先教員と協議会を行い、今後の改善策を検討した。	燕中等教育学校、第3学年、5月～2月の土曜講座4日、各80分×2学級。 *2010年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始した。事業は2011年度で終了。
柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)	「美術科教材開発研究」 (大学院1年次、1人)	陶芸による植木鉢の制作から始まり、その植木鉢に植物を植えたものをインスタレーションという表現形式で発表するまで、1年間の構想によるワークショップである。本発表は、その最初の陶芸の制作の場面を取り上げている。	新潟市立内野中学校、美術部員18名、9月、4時間。

2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

—学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成 15 年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週 1 回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成 17 年 6 月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後 12 年目にあたる平成 26 年度において、学校からの派遣要請総数は 126 校、252 人であった。派遣されたのは、教育学部 3・4 年次生のほか、大学院教育学研究科、現代社会文化研究科に在籍する学生・大学院生、総計 143 人である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（45 校、88 人）、中学校（22 校、46 人）、幼稚園（3 園、5 人）、特別支援学校（1 校、2 人）、中等教育学校（1 校、2 人）総計 86 校である。学校数、派遣人数については、平成 25 年度（94 校、156 人）から、派遣校数が 8 校減少、派遣者数が 18 人減少した。なお、平成 18 年度から新潟青陵大学、平成 26 年度から新潟県立大学がこの事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9 月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生 68 名のほか、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計 73 人）。12 月には、「平成 26 年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生 74 名のほか、大学教員、現職教員等、総計 101 人）。

平成 17 年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2 単位、選択）が設定されている。平成 26 年度においては、20 人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第 12 年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校 6 校に対して、8 人の学生を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、見附市立学校には 9 校（小学校 6 校、中学校 2 校、特別支援学校 1 校）に 33 人、三条市立学校には 4 校（小学校 3 校、中学校 1 校）に 5 人、燕市立学校には 9 校（小学校 6 校、中学校 3 校）に 30 人の学生（留学生 3 人を含む）をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景（英語の授業）



公開シンポジウム（全体討論風景）

2.7 教育実習

1 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

2 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

(1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

(2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。実習後には、附属学校の教員等を講師として事後指導を兼ねてのキャリアガイダンスを実施した。

(3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

(4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.8 介護等体験

1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成 9 年法律第 90 号）が公布され、平成 10 年 4 月 1 日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校教員免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で 5 日間、本学の特別支援学校で 2 日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

2 ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成 26 年 4 月 10 日（木）

対 象 平成 26 年度に介護等体験を希望する者（主として 2 年生）

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施にあたって

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 菌 衛 部門長

(3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 大竹 嘉則 氏

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

(4) 介護体験の諸連絡等

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

○ ガイダンス

月 日 平成 26 年 11 月 19 日（水）

対 象 平成 27 年度に介護等体験を希望する者（主として 1 年生）

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

3 実習状況

平成 26 年度は、学校教員養成課程 210 名、その他の課程 61 名、大学院 1 名の計 272 名が表 1 及び表 2 のとおり実習を行った。

4 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により延べ 11 名の学生が実習の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】平成 26 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	51	195	
長岡市	12	18	
三条市	4	5	
新発田市	3	4	
柏崎市	5	7	
加茂市	1	4	
十日町市	3	4	
村上市	3	5	
燕市	4	5	
糸魚川市	1	1	
見附市	1	1	
五泉市	1	1	
上越市	2	3	
妙高市	2	3	
小千谷市	2	2	
佐渡市	2	2	
魚沼市	3	4	
南魚沼市	2	2	
胎内市	2	3	
田上町	1	1	
合 計	105	270	

※ 1名が昨年度までに社会福祉施設における介護等体験実施済

【表 2】平成 26 年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5月7日～5月8日	27
	2	5月14日～5月15日	25
	3	5月28日～5月29日	28
	4	6月25日～6月26日	26
	5	7月9日～7月10日	29
	6	9月16日～9月17日	22
	7	10月1日～10月2日	28
	8	10月7日～10月8日	25
	9	10月15日～10月16日	27
	10	1月14日～1月15日	30
合 計			267

※ 3名が昨年度までに特別支援学校における介護等体験実施済

2.9 「学校インターンシップ」——大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。①実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に②教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して③専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」（2単位）の一環として位置付けられていたが、平成20年度に行われたカリキュラム改革により「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、2単位）として独立している。

平成26年度においては4名の大学院生が活動を実施した。その概要は以下の通りである。

No	氏名	所属	実施校	目的、活動内容、形態	時期
1	A	学校教育 学	新潟大学 附属新潟 小学校	制作学習に相応しい支援教材の研究。オリジナル袋の制作、授業観察、家庭科授業実践研究。	平成26年 9月～ 12月
2	B	特別支援 教育	新潟市立 内野小学校	学校の学習内容と近づけたカタカナの文字操作課題の研究。授業観察、授業実践研究	平成26年 6月～ 12月
3	C	特別支援 教育	新潟大学附 属特別支援 学校高等部	自閉症スペクトラム高校生を対象としたソーシャルスキルの育成研究。授業観察、評価データ分析	平成26年 10月～ 2月
4	D	特別支援 教育	新潟大学 附属特別 支援学校	サイコロトークを用いた観察と指導の研究。授業観察、特別支援教育授業実践	平成26年 6月～ 12月

2014年12月16日に4名の受講生により組織された実行委員会の計画、運営により「学校インターンシップ報告会」が開催された。当日は、郷委員長の挨拶に続き、2名の活動報告が行われた。その後、参加学生と教員による質疑応答が行われた。次年度には、学部生の報告会への参加促進を促すため、改善の必要が浮上した。

なお平成25年度の活動内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編「大学院教育における実践的カリキュラムの開発（第9年次）平成25年度「学校インターンシップ」実践報告書、2014年3月

「企業等インターンシップ」(音楽表現コース)

音楽表現コースでは、現在7つの企業や団体が学生のインターンシップを受け入れている。それらは、Sony Music Foundation、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall、鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、国際音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売業務など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。

2014年度のインターンシップには7名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は『平成26年度 新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第14号を参照

- ・公益財団法人 東京交響楽団事務局：7月（1名）
事務所（ミュージザ川崎）見学、リハーサル（大久保）見学、サントリーホール定期演奏会や新潟定期演奏会等の運営業務やステージ・マネジメント実習。
- ・Hakuju Hall：8月（1名）
リクライニング・コンサート、並びにギター・フェスタ2014等でのケータリング業務、受付業務、その他の運営業務。
- ・鼓童：8月（1名）
国際音楽祭 Earth Celebration での舞台設営や、フリンジの設営業務（小木みなと公園）。
- ・公益財団法人 新潟県文化振興財団：8月（2名）
ミュージカル「ミスサイゴン」の舞台設営やケータリング等の運営業務。
- ・ヤマハミュージック関東・新潟店：9月（2名）
楽譜、楽器等の販売業務や音楽教室運営の見学、補佐など。

「企業等インターンシップ」

健康スポーツ科学課程

平成26年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

本課程においては、平成12年より3年生対象に課程共通必修科目として、「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」の科目名称で、インターンシップを実施している。

ヘルスプロモーションコースにおいては、健康関連機関において実態観察と運営、指導等の実務に携わり、スポーツ科学コースにおいては、体育・スポーツ関連の諸機関・施設において事務・実技指導等の実務に携わる実習を行った。今年度の実習先は、12ヶ所であった。実習先は一覧に示す。

1. 学年・単位 3年生、必修科目2単位
2. 事前事後指導 4月から10月まで8回実施
3. 実習期日・期間 9月初旬から2週間
4. 特別講演 7月17日（全学年参加）講師；上村征夫氏
5. 実習報告会 10月16日（全学年参加）
6. 実習報告書作成 12月

実習先一覧

受け入れ企業名	期 間	人数
新潟市保健所	9/1～9/12	4
新潟県健康づくり・医科学センター	9/4～9/17	3
新潟県体育協会	9/8～9/19	2
新潟市スポーツ振興課	9/1～9/14	2
新潟市体育協会	9/2～9/15	2
新潟市西総合スポーツセンター	9/2～9/15	2
新潟市東総合スポーツセンター	9/2～9/15	2
新潟市鳥屋野総合体育館	9/2～9/15	2
新潟市亀田総合体育館	9/2～9/15	2
下山スポーツセンター	9/2～9/15	2
障害者交流センター	9/9～9/22	1
ビジョン吉田及びスポーツバイキング分水	9/8～9/19	7

「企業等インターンシップ」

(1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

① 平成26年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成26年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：石山【2】、中央【2】、鳥屋野【2】、関屋【1】、新津【1】、坂井輪【2】、西【2】

新潟市図書館：中央【1】

新潟県立生涯学習推進センター【1】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

② 報告書

『平成26年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成27年2月27日）120部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め、実際に行う際の参考にさせています。

2.10 各課程の特色ある教育活動

佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で6年目になる佐渡市豊岡地区祭り(鬼太鼓)に森下研究室所属学生全員が参加した。祭りに先立って3月30日~4月4日、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。大学



に戻り、祭礼の前日4月12日に再度佐渡入りをし、地元の方々と共に準備を行って13日に祭りの本番を迎えた。例年、学生は法被を着けて舞うだけだが、今年は卒業生1名が面、装束を着けて舞うという重責を任された。

村上市立西神納小学校訪問演奏

9月2日、村上市立西神納小学校に訪問演奏に出向いた。これは音楽教育実践入門I(コレギウム)の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志



望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30数名で行ったものである。今年、西神納小学校地元の民話をテーマに行い、ミュージカルでは「かっぱの証文」題して演じ、好評を博した。

特色ある教育活動（音楽表現コース）

新潟市西区役所との連携により、大学と地域連携プロジェクト「暮らしっく広場 2014」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」、「卒業研究」等）の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われているこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、2年目にあたる今年は、①室内楽を中心とする本格的な音楽作品を原曲で提供する、②声楽を伴うコンサートをさらに充実とさせるという基本方針のもと、5企画と学校でのワークショップが開催された（参加人数：約1200人）。

声楽コンサートでは、音楽科講師の鈴木愛美に二期会で活躍するテノールの古橋郷平やバリトンの吉川健一を加え、オペラ・アリアや重唱による充実したコンサート「Bravo!」が行われた（ピアノ・田中幸治）。学生たちの構成やナレーションを土台とし、〈ドン・ジョヴァンニ〉や〈リゴレット〉などから名曲が披露されたこのステージはクオリティの高さが大多数の聴衆に感銘を与えただけでなく、「有料にすべき」との声も寄せられ（アンケート調査）、今後のプロジェクトの在り方を考える重要な手がかりとなった。

本格的な室内楽作品による企画としては、今まで扱われてこなかったハーブに焦点が当てられ、東京を拠点に活動するハーピストの奥田恭子が新潟のアーティストたちと共演する「Kammer」が好評であった。シュポアの〈ヴァイオリン、チェロとハーブのための三重奏曲〉やドビュッシーの〈フルート、ヴィオラとハーブのためのソナタ〉等ふだん聴く機会のない作品が演奏されたステージでは体験コーナーも設けられ、小学生たちが積極的にステージに上がってハーブを体験するなど、貴重な機会となった。

「和楽」も今までのプロジェクトで取り扱われてこなかった邦楽器に焦点を当てたもので、尺八（鯨岡徹）や箏（藤崎浩子）といった日本古来の楽器とヴァイオリンをコラボレーションさせる興味深いステージとなった。〈春の海〉や〈六段の調〉から1972年に作曲された〈絵馬〉やテレビ番組〈情熱大陸〉の主題歌など幅広い作品が取り上げられ、聴衆は邦楽器の持つ柔軟性やさまざまなレパートリーへの順応力を再発見することができた。

また、昨年の初公演が好評だったタンゴの今年は、「尾澤昌仁タンゴ・エチゴリアン」に加えてダンサーのTake & Beronicaが独自のカラーを放ち、「Sol de Mayo—情熱のタンゴ」に詰めかけた聴衆の熱い期待を満たして余りあるステージとなった。

また、学校でのワークショップはトランペット（藤井裕子）を中心とする金管楽器に関するプログラムが生まれ、五十嵐小学校の3年生を対象に2公演が行われている。

詳細は、横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に掲載の広報紙や各企画のチラシ、ガイドブック等を参照のこと。

特色ある教育活動（国語教育講座）

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 26 年度夏期研究会

日時：平成 26 年 7 月 26 日（土）14：00～17：00

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：シンポジウム「国語教師のライフヒストリー ―5 年経験者の実践報告に学ぶ―」

シンポジスト	長岡市立大積小学校	尾崎 絵里佳
	新潟市立白根北中学校	菊地 美奈都
	新潟青陵高等学校	田辺 崇
コーディネーター	新潟県立教育センター	山本 寛

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会 平成 26 年度研究大会

日時：平成 27 年 2 月 7 日（土）13：30～17：00

場所：新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容：

① 研究発表

・『大鏡』作者の位置 藤原資平の視点から ―作品構造と菅原道真―

元・新潟市立中学校教諭 五十嵐 正子

・短期大学におけるライティング・ワークショップの実践

新潟青陵大学短期大学部 峰本 義明

② 講演

・日本近代文学における川の物語

新潟大学教育学部 堀 竜一

③総会

(3) 機関誌『新大國語』の編集・刊行

①『新大國語』第 36 号（平成 26 年 3 月）を刊行。

②『新大國語』第 37 号（平成 27 年 3 月）を編集。

特色ある教育活動（生活科学課程）

生活科学主専攻プログラムは新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の試行に参加しており、到達目標見直しを含んだカリキュラムマップ重みづけ作業を通じた授業科目の系統性に関する検討を行ってきている。

今年度は検討内容の検証へとフェーズを進め、25年度から開講している所属初年次学生に対し、NBAS 利用の導入としての授業科目「生活科学総合演習」の拡充を図った。本授業科目は、①主専攻プログラムのカリキュラム内容の理解、②学習過程の記録を蓄積・整理し、学生個々が身につけた知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的能力について省察することの意義と方法の習得（「振り返り」と呼称）を目的とし、3年目の本年についても所要の成果を得た。

今年度の試みとしては生活科学総合演習を「初年次学生のキャリア形成への動機づけ」の機会として、隔週・通年の形式で授業を進行した。基本的な構成としては総合演習で学習の意義を説き、1学期に開講されるスタディスキルズでその具体的な実践を学んでいく。加えて年度始めには、課程所属全教員が自身の教育・研究内容を30分程度の時間でプレゼンテーションを行い、授業後提出された学生からの質問に対してNBAS機能を用いて回答を提示した。2学期始めには数名の4年生に「学生生活を振り返る」のテーマでプレゼンテーションをしてもらい、受講学生からは「どちらのプレゼンテーションも大変な刺激になった、自分の将来を真面目に考えるきっかけになった」等の感想が寄せられた。この他にも「ポートフォリオ作成とその効果」、「論理的思考とその方法」、「メタ認知を考える」などを通じて学生個々の自己評価活動における振り返りと教員のフィードバックシステムの基礎を形成することができた。

また前年度に引き続き、課程内でスタディスキルズ、および生活科学総合演習についてのミニFDを開催して、教員個々の授業内容と主専攻プログラムとのマッチングを議論する機会を設けた。

特色ある教育活動（芸術環境創造課程造形表現コース）

1. 「日本海夕日コンサート舞台演出」

日本海夕日コンサートは、新潟市民のボランティアが運営するキャンペーンである。芸術環境講座では毎年、有志の学生を集め実行委員会と関わり取り組んでいる。この取り組みは、芸術表現を活かした社会体験のインターンシップとして位置づけている。指導は柳沼教授、橋本准教授が担当。

会期：2014年8月9日(土)

会場：新潟市青山海岸

主催：日本海夕日キャンペーン実行委員会

後援：新潟市



2. 「地域連携アートプロジェクト」

講座での特色としては、新潟市西区内野町を舞台としアートを用いた地域コミュニティ活性化事業である「うちのDEアート」の存在がある。また、中央区榎谷小路商店街との連携事業での「アートフラッグプロジェクト」の取り組みなどに取り組んだ。教員及び有志の学生は実行委員会に組織され、街の組織委員との協議を重ねプログラムを組み立てて活動を試みている。講座としての狙いは、芸術表現と社会との接点から造り上げられる新たな表現を生み出すことを目的として進めている。そこには、様々な人との関わりから生まれるコミュニケーション能力の学習、企画を遂行してゆくマネジメント能力の育成が養われている。ここで学んだ力は教員として大事な自信を持った行動力を養い、共同作業として実社会で活動した体験や経験が就職活動時のPR資料として有効に使われている。



特色ある教育活動（自然情報講座）

1. 特色ある教員養成

i) 新潟市立総合教育センターとの連携

・市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

ii) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている土曜講座において、実験等を豊富にとり入れた理科授業を学生が行った。対象は中学3年生であり、4回の授業（80分×2クラス）を行った。

2014年5月10日（土）生物（木の成長の仕方）

9月27日（土）化学（酵素）

12月6日（土）地学（爆発）

2015年2月28日（土）物理（光）

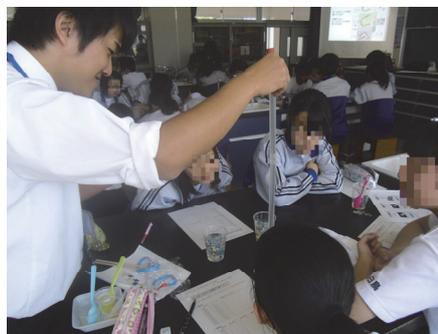


図 化学回の酵素の分解実験の様子

iii) 理科支援員等配置事業における小学校理科の支援

2013年度から文部科学省が実施している小学校、中学校の理科の実験・観察を支援する補助員（PASEO）として、計2名の理科の学生が新潟市の小学校で活動した。

iv) 長岡市立科学博物館との連携

長岡市立科学博物館の主催する、第63回県下生物・岩石標本展示会（10月20日～11月2日）に、理科の学生4名が植物野外実習で作成した植物・菌類標本（合計200点）を参考作品として出品した。

v) 化学実験公開講座の開催（2014年8月8日（金））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学—21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全15テーマ）の講座を企画・実施した。この体験実験に参加した高校生は14名であった。

vi) 柏崎高校SSH事業 SSI大学アドバンス講座（2014年8月4日（月））

柏崎高校理数コース1年1組の29名を対象に、午前中、「流水のはたらきによる粒子の動きと地層」の講義、粒子沈降実験、および地層形成実験を行った。午後は、柏崎市聖ヶ鼻にて野外実習を行い、午前中学習した内容を自然の地層を実際に観察した。このことにより柏崎の大地の成り立ちについて再考した。

vii) 聖籠町立山倉小学校 PTA教養部主催 親子体験教室（2014年9月13日（土））

聖籠町民会館小ホールにおいて、山倉小学校の児童と保護者および同伴の幼児約60名を対象に、理科教育の教員1名と3・4年次の学生6名が親子教室を実施した。参加者は「飛行機はなぜ飛べる？」をテーマに、紙飛行機を折って飛ばして、飛行の原理としての揚力について体験的に学んだ。

2. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

2008年度より長岡市立日吉小学校の科学クラブ（対象は小4～小6、約20名）の支援を実施している。今年度は理科教育学研究室の3年生が実施した。

内容と実施日：しゃぼん玉（11月26日）

特色ある教育活動（書表現コース）

書表現コースは一学年定員15名、大学院生まで含めて約70名からなる。日頃の授業で基本的な実技力、書論書道史、鑑賞法など基本的な理論研究を行う。

加えて最大の特徴は、授業で培った内容を校外向けに年数回の展覧会を開催するところにある。

以下おもなものを列記する。

- 二年生による学年展（5月中頃西新潟市民会館）
- 西日本出身者による驥鳳会書展（7月中頃新潟市民芸術文化会館）
- 東日本出身者による芙蓉会書展（8月中頃新潟市民芸術文化会館）
- 在校生全員による書道科展（12月新潟県民会館）
- 三年生による学年展（12月新潟大学駅南キャンパスときめいと）
- 卒業修了制作展（平成27年2月新潟県民会館）

などがある。

作品の傾向として他大学の展覧会と比べ作品のサイズが大きく、およそ1人畳六枚分程の大きさ平均的である。また、ひとつの展覧会を開催するにあたり、企画立案、広報、表具、陳列撤去にいたるまで学生達が主体的に行う。来場者は主に県内の書家・一般の愛好家・卒業生・学生の保護者家族など、毎回多くの参観がある。

次に夏休み中に三泊四日で錬成会を行っている。南魚沼郡湯沢町にて三年生までが参加し、講師は専任教員の他、学外の著名な作家を招聘して行う。こういった本格的な夏季錬成会を行っている大学は他にない。

加えて学生立案による研修旅行を行っている。今回は11月、福島県に一泊二日で実地見学を行った。専門的な研究と共に周辺の美術や歴史文化を学びながら学生間の親睦を深めている。

また、近年のパフォーマンス書道ブームに乗じて、学外からの出張制作依頼もある。これまでに新潟市水道局の行事や新潟市成人式のイベントの一環として、パフォーマンス書道を行った。



新大祭におけるパフォーマンス書道
(教育学部正面玄関)



書道科展での学生集合写真

2.11 中高生などの大学見学

本学部では、入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力をアピールしている。

担当教員は、カリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、本学部進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月12日	福島成蹊高等学校	2年生6名	向山 恭一
2	6月17日	群馬県立富岡高等学校	2年生7名	内田 健
3	6月27日	富山県立魚津高等学校PTA	保護者20名	入山 満恵子
4	7月10日	栃木県立黒磯高等学校	2年生55名	石垣 健二
5	7月16日	新潟県立新発田南高等学校	1年生38名	麓 慎一
6	7月22日	栃木県立足利高等学校	1年生43名	神村 栄一
7	7月23日	私立青陵高等学校	2年生38名	福田 学
8	10月2日	福島県立郡山高校高等学校	1年生50名	前田 洋介
9	10月21日	私立北越高等学校	1年生20名	張間 忠人
10	10月30日	新潟県立新発田高等学校	保護者22名	横山 知行

【附属学校からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月9日	附属長岡小学校	小学校5年生54名 及び保護者54名	小林 日出至郎（附属長岡小学校長）
				伊野 義博（模擬授業）
2	7月9日	附属新潟中学校	中学校2年生116名	富田 健之（附属新潟中学校長）
				鈴木 恵（模擬授業）
				岡村 浩（模擬授業）
3	9月30日	附属長岡中学校	中学校1年生126名	加藤 茂夫（附属長岡中学校長）
				岡村 浩（模擬授業）

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの高野 榮客員教授、高橋 雄一特任教授、津野 敏江特任教授、林 克久特任教授である。

1 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

2 実施内容

(1) 前期分

対象学生：学部4年生，大学院生，養護教諭特別別科生，新潟大学の卒業生

開講時間：16:25～17:55（ただし，第2・13回は，下記※印のとおり），場所：204教室 外

	実施日	テーマ（内容）	講師
1	4月17日（木）	ガイダンス	高野・高橋・津野・林
2	5月8日（木） ※15:30～17:00	教員採用検査についての説明 （新潟県教委・新潟市教委からの説明）	新潟県教育委員会 義務教育課伊藤管理主事 高等学校教育課佐藤管理主事 新潟市教育委員会 教職員課白石管理主事
3	5月22日（木）	筆答検査問題対策①	高野・高橋・津野・林
4	5月29日（木）	筆答検査問題対策②	高野・高橋・津野・林
5	6月19日（木）	個人面接に関する講義と演習，個人・集団面接	高野・高橋・津野・林
6	6月26日（木）	個人・集団面接，模擬授業の講義・演習	高野・高橋・津野・林
7	7月3日（木）	第1次検査へ向けた心構え	高野・高橋・津野・林
8	7月10日（木）	第1次検査の反芻と第2次検査のガイダンス	高野・高橋・津野・林
9	7月17日（木）	第2次検査に向けての対策1	高野・高橋・津野・林
10	7月24日（木）	第2次検査に向けての対策2	高野・高橋・津野・林
11	8月4日（月）	第2次検査に向けての直前対策	高野・高橋・津野・林
12	11月6日（木）	臨時教員採用希望者への指導・助言 （「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」）	高野・高橋・津野・林
13	11月13日（木） ※14:40～16:10	採用候補者への指導・助言	本校卒業生 新潟市立沼垂小学校 田川教諭 新潟市立牡丹山小学校 長谷川教諭 新潟市立小須戸中学校 大塚教諭

(2) 後期分

主たる対象学生：学部3年生，大学院1年生 開講時間：16:25～17:55，場所：204 教室

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月9日 (木)	特別講座のガイダンス	高野・高橋・津野・林
2	10月16日 (木)	法規について，学習指導要領について	高野・高橋・津野・林
3	11月20日 (木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて	新潟市教育委員会学校支援課 齊藤指導主事
4	11月27日 (木)	採用検査に向けた指導Ⅰ	高野・高橋・津野・林
5	12月4日 (木)	採用検査に向けた指導Ⅱ	高野・高橋・津野・林
6	12月11日 (木)	学習指導上の課題とその解決に向けて	新潟市立新通小学校 南校長
7	12月18日 (木)	採用検査に向けた指導Ⅲ	高野・高橋・津野・林
8	1月8日 (木)	採用検査に向けた指導Ⅳ(採用内定学生による助言)	採用内定学生
9	1月22日 (木)	教育行政が期待する教師像	新潟市教育委員会教職員課 吉田課長補佐
10	1月29日 (木)	本講座のまとめと次年度特別講座に向けて	高野・高橋・津野・林

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

1 教員採用試験対策支援プログラム（H27.4 採用者向け）

（1）教員採用検査合格に向けたガイダンス（教採合格ガイダンス）

平成26年5月2日、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は162人。ガイダンスは、（1）高木副学部長から、自身の教員生活を振り返っての「教職という仕事について」、（2）本学部を卒業し、東京都の小学校で正規教員となった野口先生から体験談の発表、（3）大平准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意、具体的なアドバイスおよび教員採用検査対策支援プログラムなど大学のサポートの説明などが行われました。

参加者からは、「今後の見通しを立てることができた」「県外へ併願した先生のお話が聞けて安心した」「現場の先生の話が聞けてモチベーションが上がった」などの感想が寄せられました。



(2) 教員採用検査合格者(卒業生)の模擬授業見学

平成26年5月22日(木)18:00~19:30、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生2名を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は67人。

実際の教員採用検査と同じ進行で模擬授業を実施した後、質疑応答を行った。

参加者は、自身が実施する模擬授業をイメージしながら、先輩の授業を熱心に観察していました。

アンケートでは、「模擬授業をすることに現実味がなかったのですが、今日で内容を知ることができて良かった」、「試験を想定した模擬授業の様子を見ることができ、非常にためになった。勉強のポイントも教えていただきとても勉強になった」「今日学んだことを活かして、本番にむけてがんばっていきたいと思った」など大きな刺激となったようです。



(3) 教採対策講義(特別支援教育・教育心理学)

教員採用検査対策として以下のとおり教採対策講義を行った。参加者は延べ81人。

<特別支援教育の現状について> 5月12日(月)

<教採に向けた教育心理学> 5月26日(月)

参加者からは、「(特別支援)特別支援教育についてあいまいだった部分がはっきりと理解できた」、「(教育心理)自分の覚えていることを口に出して説明する難しさがわかった」などの意見が寄せられた。



(4) 理科実技試験対策

平成26年5月28日(水)、30日(金)、6月19日(木)、24日(火)、25日(水)の5日間、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者(延べ17名)は、理科教員から、実技試験を想定したアルコールランプなどの実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。



(5) 家庭科実技試験対策

平成26年5月29日(木)、6月23日(月)、教員採用検査支援対策プログラムとして「家庭科実技試験対策」を行いました。参加者(延べ6名)は、実技試験を想定した調理実習や被服課題の作成などを行った。



(6) 小論文指導

平成 26 年 6 月 19 日 (木) 5 限, 教育学部 304 講義室において, 小久保美子教授 (国語科) 指導のもと, 教員採用試験受験者を対象とした「小論文指導」を行った。参加者は約 70 人。

参加者からは, 「実際の小論文の事例から具体的な書き方や対策を教えていただいた。」「不安だったので, 試験直前に指導を受けられて安心した。」「細かいところまでポイントをわかりやすく解説してくださってとても勉強になった。」などの意見が寄せられました。



(7) 模擬授業

6月30日～7月2日、7月14日～17日の7日間、実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を高木副学部長・大平准教授を中心に、現職教員（派遣大学院生）や多くの学部教員の協力を得て実施した。参加者は延べ149人。

抽選により決定した授業実施者が、実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し、参加者との質疑討論の後、教員等からアドバイスを受けました。

参加者からは、「本番のような環境で授業ができて勉強になった」、「細かな指導の仕方など、現職の先生からたくさん話を聞くことができよかった」などの意見がありました。



(8) 面接・場面指導

平成26年8月6日（水）5限、「面接・場面指導」対策講義を行った。参加者は97人。全学教職支援センター高橋特任教授、津野特任教授をはじめ、高木副学部長、伊野教授、大平准教授が面接官役となり、学生代表者3名と実際の教員採用試験を想定した面接・場面指導を行った。参加者からは「場面指導で何をすればよいかわからなかったのが役に立った。」、「先生方の意見・指摘を聞いて参考になった。」など、二次試験の面接に向け、意欲を高めた。



(9) 体育実技 (器械運動)

5月30日から7月25日の毎週金曜日、第二体育館において「体育実技練習会 (器械運動)」を行った。参加者は延べ60名。五十嵐久人教授指導のもと、教員採用試験の実技科目 (マット運動・鉄棒など) について、実践的な指導を行った。

また、練習会日程終了後の自主練習会場として、体育館の貸し出しを行った (8月12日～20日)。



(10) 体育実技 (ダンス)

檜皮先生の指導のもと、体育実技対策 (ダンス) を行った。参加者は、動きの見せ方や目線など具体的な指導を受けた。



2 教員採用試験対策支援プログラム (H28.4 採用者向け)

(1) 教員採用試験の最新動向と対策 (時事通信出版局ガイダンス)

平成 26 年 12 月 19 日 (金) 5 限, 時事通信出版局から講師を招き, 講演を行った。今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析, 最新教育時事の傾向と対策について講演を行った。参加者は約 90 人。

参加者からは, 「ポイントがわかり, すぐに教採に向けた勉強を始めようと思えた」などの感想が寄せられた。



(2) 教採対策講義 (教職教養)

平成 27 年 3 月 3 日, 5 日, 10 日, 17 日の 4 日間, 「教採に向けた教職教養」について講義を行った。参加者は延べ 400 人。参加者からは「何が大切かよくわかった。問題の解き方がわかり, やっていて力になるのがわかった。」などの感想が寄せられた。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成26年9月25日（木）に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、（1）観察参加実習を振り返って、（2）3年次の教育実習での心構え、（3）教員という職業について、（4）教員採用検査の流れを中心に、附属新潟小中学校、附属長岡小中学校の教員や学部教員等を講師にガイダンスを行った。参加者は220人。

参加した学生は、観察・参加実習を振り返り、3年次に行う教育実習に向けて、また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

1 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成26年11月20日(木)、企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。参加者は約40人。

講座では、内定者4人による具体的な就活体験談とパネルディスカッション、キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では、企業就職を果たした内定者2人からは、就職する企業を志望した理由や具体的な活動の時期や内容について、公務員就職を果たした内定者2人からは、試験勉強の方法、教員採用検査受験・一般企業就活との並行についての具体的な話があった。

続いて、株式会社マイナビの本間氏から就職決定と活動の進め方のアドバイスがあった。

パネルディスカッションでは、「業界研究・企業研究・官公庁研究はどのようにすすめたか」、「就職活動や受験が始まる前の就職活動や受験のイメージと就職活動や受験が終わった後の就職活動や受験のイメージはどう変わったか？」などについて意見が交わされた。最後に、キャリアコンサルタントから、キャリアセンターの活動についての紹介、自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスがあった。

参加者からは、「刺激を受け、いい意味で焦りを感じよかった」、「先輩の具体的な勉強の流れの図表が大変役に立ち参考になった」などの意見が寄せられた。

2 就職・進路何でも相談会

5月、7月、10月、12月、1月に「就職・進路何でも相談会」を開催した。このセミナーは、就職活動や今後の進路に迷っている学生を対象(全学年対象)として、進路や就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。参加者は18人。

キャリアセンター特任専門職員村山史子さん(キャリアコンサルタント)と学部教員が連携しサポートにあたった。

3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

1 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」(「教職理解特別講座 I」第 12 回)

日時：平成 26 年 11 月 6 日 (木) 16: 25～17: 55

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、高橋雄一全学教職支援センター特任教授から、教員としての心構えや希望調書に記入する自己 PR の表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス (学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp) に随時送信を行った。

2 平成 27 年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」(登録者数 31 名)をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の 7 自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会および栃木県教育委員会へは、全学教職支援センター教員が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪 問 先	期 日	担当教員
新潟市教育委員会	1 月 15 日 (木)	津野特任教授
下越教育事務所	1 月 26 日 (月)	高橋特任教授
新潟県教育委員会	1 月 27 日 (火)	津野特任教授 林特任教授
中越教育事務所 上越教育事務所	2 月 4 日 (水)	高橋特任教授

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

1 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成26年5月2日（金）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は162人。

ガイダンスは、(1) 高木副学部長から、自身の教員生活を振り返っての「教職という仕事について」、(2) 東京都小学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、(3) 大平淳一准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意、具体的なアドバイスおよび教員採用検査対策支援プログラムなど大学のサポートの説明などが行われた。

参加者からは、「今後の見通しを立てることができた」「県外へ併願した先生のお話が聞けて安心した」「現場の先生の話が聞けてモチベーションが上がった」などの感想が寄せられた。

2 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成26年10月2日（木）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。参加者は349人。

ガイダンスでは、(1) 全学教職支援センター特任教授から「教職理解特別講座」の説明、(2) 昨年度教育学部卒業生で県内の小・中学校で活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、(3) 大平准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。

参加者からは、「夏休みが終わってすぐで、実習後から本格的に勉強を始めようと思っていたので参考になった」「先輩の話聞きながらこれからやるべきことを具体的に知ることができた」など、教員採用検査に向けて決意を新たにしたいようであり、今後も教育学部として現場で活躍する先輩方の話を聞く機会を増やしていきたいと考えている。



3.7 教員採用・就職活動バス支援

教員採用及び就職活動支援として、新潟県・新潟市との併願が可能な「東京」、「愛知・名古屋」の教員採用試験の日程に合わせてバスの運行を支援する、「教採バスツアーin 東京」、「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」、東京教育委員会が主催する「東京学校見学バスツアー」への経費支援を行った。

- (1) 教採バスツアーin 東京【7月12日（土）～7月14日（月）】（参加者 38名）



- (2) 愛知・名古屋への教採・就活バス支援【7月18日（金）～7月20日（日）】（参加者 12名）



<バス支援について学生からの要望・ご意見について>

- ・今回とても良かったので、今回のように続けてもらえればいいと思います。
- ・バスがあったから、遠いところだったが愛知の採用まで、視野を広げることができた。
- ・休憩時間や場所等も適切で快適だった。二次の際もバス支援があると嬉しい…
- ・到着後、試験会場を下見して宿泊場所に行くのにちょうど良い時間であった。
- ・お昼の時間をもう少し減らして早く着いてくれるとうれしいです。
- ・教採期間中は、金欠になりやすいのでバス支援はありがたかったです!!

- (3) 東京学校見学バスツアー参加支援 [第3回：平成27年2月13日] 参加者は1名

3.8 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページに就職情報ページには、教員や公務員、一般企業への就職を希望する学生向けに、教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘話など、教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページURL :

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo, the text '教育学部' (Faculty of Education), and 'FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY'. A search bar is located in the top right corner. Below the header is a navigation menu with icons for '就職生の皆さま' (For job seekers), '在学生の皆さま' (For current students), '学校・教育関係の皆さま' (For school/education related), '卒業生の皆さま' (For graduates), and '学内向け情報' (For campus information). The main content area is titled '就職情報' (Job Information) and is divided into several sections: '就職実績' (Job Achievement) with links to graduate employment status, industry-specific career paths, and main employment destinations; '就職に向けて' (Towards Employment) with links for faculty recruitment, public sector jobs, and private sector jobs; '就職体験記' (Job Experience Stories) with links for the years 2013, 2012, 2011, and 2010; '教員採用検査(面接)内容調査(学内限定情報)' (Faculty Recruitment Exam Interview Content Survey - Campus Limited Information) with links for the years Heisei 27, 26, 25, 24, and 23; and '就職支援活動' (Job Support Activities) with links for faculty recruitment, faculty understanding special lectures I and II. The right sidebar contains promotional banners for '東日本大震災への対応' (Response to Great East Japan Earthquake), '塩野文庫' (Shiono Bunko), '新潟大学創立60周年 教育学部創立135周年記念考査' (60th Anniversary of Niigata University, 135th Anniversary of Faculty of Education Commemorative Exam), '教育学部 学部案内' (Faculty of Education Department Guide), '教育学部の情熱と魅力' (Passion and Charm of the Faculty of Education), and the '新潟大学' (Niigata University) logo. The left sidebar contains a 'メニュー' (Menu) with links to Home, Faculty of Education, Graduate School of Education Research, Faculty Partnership Projects, Special Lectures, Affiliated Schools, Admission Information, Career Information, Publications, and Access. At the bottom of the left sidebar, there is contact information for the Faculty of Education, including the address, phone number, and fax number, along with a note about the website's management and a small image of the building.

3.9 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用度が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



教職サポートルーム (101 講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

4. 平成26年度 学部FD

- 第1回 日 時 5月8日(木) 15時00分～16時30分
会 場 大講義室
内 容 「教職大学院への期待」
パネリスト 岡野 勉 (新潟大学教育学部教授)
木村 政伸 (新潟大学教育学部教授)
熊倉 達也 (新潟県教育委員会義務教育課参事)
吉田 隆 (新潟市教育委員会教職員課課長補佐)
まとめ 鈴木 賢治 (新潟大学教育学部学部長)
- 第2回 日 時 7月10日(木) 13時20分～14時30分
会 場 大会議室
内 容 「教員養成の歴史と新潟大学教育学部」
講 師 木村 政伸 (新潟大学教育学部教授)
- 第3回 日 時 7月17日(木) 16時30分～17時50分
会 場 大講義室
内 容 「現代の教養 地球時代をどう生きるか—大学改革の視点から考える—」
講 師 堀尾 輝久 (東京大学名誉教授)
- 第4回 日 時 9月11日 13時30分から
場 所 大会議室
内 容 平成27年度科学研究費助成事業公募について
講 師 全学科研担当 (研究推進課・財務企画課)
- 第5回 日 時 10月9日(木) 13時30分～14時30分
場 所 大会議室
内 容 「学生のメンタルヘルスと学生指導・支援に向けて」
講 師 中村 協子 (教育・学生支援機構 教育支援センター特任教授)
- 第6回 日 時 11月13日(木) 13時30分～14時30分
場 所 大会議室
内 容 「NBAS 運用について」
講 師 後藤 康志 (教育・学生支援機構 教育支援センター准教授)
- 第7回 日 時 12月11日 14時00分～14時40分
場 所 大会議室
内 容 「2種類の自動詞と普遍文法」
講 師 本間 伸輔 (新潟大学教育学部准教授)
- 第8回 日 時 1月8日(木) 13時30分から
場 所 大会議室
内 容 「新潟県教育委員会との連携、行政との連携
— 子どもの体力向上支援事業、
中高齢者の介護予防・転倒予防事業などを中心に —」
講 師 篠田 邦彦 (新潟大学教育学部教授)
- 第9回 日 時 2月23日(月) 15時30分～17時00分
場 所 204 講義室
内 容 「教職高度化と教育学研究
— 広島大学大学院教職高度化プログラムが目指したもの —」
講 師 田中宏幸 (広島大学大学院教育学研究科教授)

5. 地域貢献

5.1 平成26年度 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の概要

1 平成26年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」(以下「12年研修」と称する)は、平成26年度で11年目を迎えた。

(1) 日程

平成26年度の「12年研修」の活動日程は下表のとおりである。

日程	研修内容	場所等
6月5日	センター・学部の事前打合せ	教育学部
7月25日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月8日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月22日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	受講者毎の「校内授業研修」	受講者の各学校
10月～12月	「研修のまとめ」	代表者の学校等

6月の事前打合せで、新潟市立総合教育センター(新潟市教育委員会を含む)指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間にわたって実施され、各受講者の授業課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループ毎に「研修のまとめ」を実施した。

(2) 受講者・指導者・グループ編制

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。(括弧内は、昨年実績)

教科名	受講者数	グループ数	指導主事等数	学部教員数
国語	15 (11)	4 (3)	4	4 (3)
社会(生活と合同)	5 (3)	2 (1)	2	2 (2)
算数・数学	14 (12)	3 (3)	3	3 (3)
生活(社会と合同)	1 (2)	0 (1)	0	0 (1)
理科	5 (6)	2 (2)	2	2 (2)
英語	4 (1)	1 (1)	1	1 (2)
音楽	4 (7)	1 (1)	1	2 (2)
図工・美術	0 (0)	0 (0)	0	0 (0)
技術	0 (2)	0 (1)	0	0 (1)
家庭	0 (3)	0 (1)	0	0 (1)
保健体育	6 (7)	2 (2)	2	4 (3)
特別支援	7 (4)	2 (1)	2	2 (2)
合計	61 (58)	17 (17)	17	20 (22)

9教科等に小中合同で17班・1班3～5名程度のグループを編制し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制をとった。

音楽、保健体育のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もあった。これらの教科では常時複数名が参加し、受講者の研修内容に応じて、指導・助言を行った。

受講者数は61名であり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導が行き届くようになっている。

2 「12年研修」の新たな取組に向けて ～ 学部「養成」と現職「研修」の連携等 ～

4年前から新たな取組として、教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。9月から12月に実施される代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に、学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会を設けた。教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようになった。平成26年度は、学部・院生計125名の参加があった。

5.2 市民・教員を対象とした公開講座

新潟大学では、広く地域に生涯学習の機会を提供することを目的として、毎年公開講座を開催しています。
 教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、本学部の特色を生かした講座を開講し、受講者から好評を博しています。

平成26年度 公開講座一覧

No	講座名	対象	講師名	受講者数
1	ファンクショナル・エクササイズの基本と応用 －機能解剖学に基づく生活動作、スポーツ運動の観察と動作修正法－	運動指導に携わる指導者 (教員, 保健師, 看護師, PT, OT, 健康運動指導士など)	教授 篠田 邦彦 非常勤講師 篠田 浩子	30人
2	楽しみながら上達する卓球教室	市民一般	教授 牛山 幸彦	60人

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、平成26年12月18日「平成26年度新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会」を開催予定であったが、雪害のため中止となった。

・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成26年11月14日、新潟市教育委員会との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部の現状、平成27年度教員採用状況及び平成28年度以降教員採用の見通し、学校現場が抱える教育課題、現職教員研修の在り方などについて率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内すべての小中学校及び特別支援学校（小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校）に学習支援（自然教室、水泳教室、補充学習、部活動指導、実験、工作教室など）のためのボランティアを22人（延べ33人）派遣した。

また、見附市内の小中学校、特別支援学校の3校へ出前指導「校内研修」として講師を3名派遣及び見附市内の小・中学校13校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を13名派遣した。

・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小中学校2校、中学校2校）」へ5人、「三条市科学フェスティバル」へ3人、「中学校音楽祭」へ3人、「学びのマルシェ」へ5人を派遣した。

また、三条市教育委員会と7回目となる連携協議会（H26.12.9）を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」の募集を行った。市内小学校6校、中学校3校に34人（延べ152人）、市教育委員会の事業「小学校5年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室」（Jack&Betty教室）に2人（延べ28人）のボランティアの派遣を行った。

5.4 平成26年度 新潟大学免許法認定公開講座実施状況

講座名	美術教育特論	キャリア教育特論	学校臨床心理学特論 I
講師名	佐藤 哲夫 (教育学部教授) 柳沼 宏寿 (教育学部教授)	松井 賢二 (教育学部教授)	神村 栄一 (教育学部教授)
実施日程	7月31日 8月 1日 8月25日 8月26日	8月 7日 8月18日 8月26日 8月27日	8月19日 8月20日 8月21日 8月22日
回数・時間数	4回・30時間		
募集人員	15人	15人	15人
受講者数	2人	1人	6人

5.5 委員就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県国土利用計画審議会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『「地域に根ざすキャリア教育推進会議」座長』
- 『新潟県名勝調査指導委員会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『新潟県教育職員免許状検定協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『「深めよう 絆 県民会議」座長』
- 『新潟県労働審議会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『スーパー食育スクール事業推進委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市景観アドバイザー』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市西区自治協議会委員』
- 『第5期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『新潟市いじめ問題等委員会委員』
- 『新潟市人権教育・啓発推進委員会委員』
- 『(仮称)障がいがある人もない人も一人一人が大切にされいかされる新潟市づくり
条例検討会委員』
- 『新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会委員』
- 『新潟市スポーツ推進審議会委員』

『いじめ防止対策等専門委員会委員』
『新潟市就学支援委員会委員』
『新潟市環境審議会委員』
『発達障害等サポート事業指導者』

長岡市

『人権懇談会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

三条市・三条市教育委員会

『三条市教育事務点検評価委員』
『三条市教育基本方針等検討委員会委員』
『三条市小中一貫教育推進委員会委員』

聖籠町教育委員会

『文科学省委託事業「コミュニティ・スクールでの熟議の充実に関する実践研究」調査研究会議委員』

見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

村上市教育委員会

『村上まつり調査指導会議専門調査員』

佐渡市教育委員会

『佐渡市名勝保存管理計画策定会議』

文部科学省

『科学技術・学術審議会専門委員』
『高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究審査委員会委員』
『自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究審査委員会委員』
『キャリア教育に係る中核的な時間の在り方に関する研究審査委員会委員』

国土交通省国土地理院

『平成 26 年度治水地形分類図の更新（北陸地区）治水地形判定委員会委員』

上越教育大学

『上越教育大学 CST 養成事業実施委員会委員』

独立行政法人 海洋研究開発機構

『地球掘削科学推進委員会掘削航海専門部会委員』

公益財団法人 新潟県体育協会

『スポーツ医科学委員会委員』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団

『理事』

財団法人 會津八一記念館

『評議員』

社会福祉法人 輝風会

『理事』『評議員』

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

『新潟市ボランティア市民活動支援センター運営委員』

社会福祉法人 新潟地区手をつなぐ育成会

『理事』

西日本高速道路株式会社

『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

2014年度国際交流事業について

相庭和彦

今年度も中国との交流事業を展開してきました。期間は12月1日から8日の7泊8日で、訪問先は北京聯合大学国際交流学院、北京師範大学珠海校そして北京師範大学附属南澳実験小学校です。また北京市内視察及び中山市と珠海市を視察してきました。参加学生数は38名、引率教員は9名でした。交流事業の内容は、聯合大学での講義受講、学生交流、附属学校の子どもたちへの日本文化紹介活動、歴史テーマに即した関係施設見学です。

北京聯合大学国際交流学院では、北京聯合大学元学長張妙弟教授から紫禁城（故宮）についての講義をしていただきました。中国の文化を象徴する紫禁城についての講義は大変興味深く、翌日の故宮見学に向けての予習として企画していたのですが、それを遥かに超える内容でした。今回の市内見学はテーマを「中国の近代」としていたので、出国前に映画「ラストエンペラー」を見ていたのですが、それとは違ったより奥の深い解説に大変な感銘を受けました。

北京師範大学での交流事業の内容は、学生交流、附属学校の子どもたちへの日本文化紹介活動、歴史テーマに即した関係施設見学です。学生交流課題は、新潟大学側からの提案が「制服と日本文化」「ユネスコに登録された日本食」の2つです。中国側からは「中国の制服について」でした。またそれに「留学生経験のある学生から見た新潟大学」と「留学生から見た北京師範大学と中国文化」でした。各々持ち時間は30分で通訳は各々の留学生たちが担当しました。お互い十分な準備をして交流会に臨んだため報告内容は深く、その上「日本食」報告グループなどは日本から缶詰の「のっぺ」を持ち込み試食させるなどしたため、議論は盛り上がり、お互いの文化を理解する上で大変有意義な時間となりました。報告会后、学生たちはグループに分かれ、キャンパスツアーとランチトークで友好を深めたようです。

北京師範大学附属南澳実験小学校での授業は「伝統的な民謡の紹介」と「福笑い」、「日本の着物文化」の紹介を行いました。授業の後、実験小学校の先生方を囲んで討論会を行いました。音楽科が展開した事業は中国の子どもにもわかりやすく大変好評でした。また日本の着物の紹介は何人かの子どもに実際に浴衣など着てもらい日本の浴衣を体験してもらうととても盛り上がりました。福笑いもルールが単純なために参加したいと希望子どもたちに授業する学生たちが圧倒されてしまいました。



市内見学研修のテーマは先述したように「中国の近代」です。紫禁城を見学し、清朝の隆盛と衰退を学習し、中国革命の父孫文の足取りをたどるのが今回の主な市内見学です。中山市孫文ゆかりの地を訪れ、その生き様から現代中国と日本関係を学習しました。



訪問の成果は大きく、参加学生たちは歴史的遺産からだけではなく、北京聯合大学や北京師範大学珠海校の先生方の人間味あふれる歓待と愛情、また小学校の子どもたちから歓迎され、注がれた暖かい視線や言葉などから日中友好とアジアの平和の重要性を学んできたようです。帰国後、参加学生から来年度も参加しようとか留学したいという声が上がりました。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

○学術交流（研究者派遣）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	柳沼 宏寿	オーストラリア	ニューサウスウェルズ大学におけるシンポジウム参加	2014/4/1	2014/4/6	科研費基盤研究（C）
准教授	杉村 桃子	ニュージーランド	サバティカルリープ中の海外研修	2014/4/9	2015/3/29	本人負担
准教授	足立 幸子	連合王国	World Literacy Parliament及びWorld Literacy Summitに出席	2014/4/12	2014/4/17	本人負担
教授	五十嵐 久人	中国	2014年ビーチバレーボール大会開催都市Inspection Visitのため	2014/4/18	2014/4/21	渡航費：アジア大学スポーツ連盟 滞在費：中国大学スポーツ連盟
准教授	大庭 昌昭	オーストラリア	国際水泳学会2014に参加	2014/4/25	2014/5/4	科研費基盤研究（C）
准教授	足立 幸子	米国	国際読書学会第59回年次大会出席	2014/5/8	2014/5/14	科研費基盤研究（C）
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟（FISU）理事会に出席	2014/5/21	2014/5/27	国際大学スポーツ連盟
教授	高橋 桂子	米国	国際学会参加ならびに研究打ち合わせ	2014/5/26	2014/6/2	科研費助成事業「基金」（文科省）基盤研究（C）
准教授	高清水 康博	スペイン	IODP Expediton 339 2nd Post-cruise Meetingに参加	2014/5/30	2014/6/8	独立行政法人 海洋研究開発機構
教授	長谷川 敬三	イタリア	研究会開催及び研究打ち合わせ	2014/6/15	2014/6/23	科研費基盤研究（C）
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金（基盤研究B）の研究のための史料調査	2014/6/19	2014/6/29	科研費基盤研究（B）
教授	相庭 和彦	韓国・中国	訪中事業準備、集中講義及び留学生指導	2014/6/29	2014/7/3	基盤教育経費
准教授	雲尾 周	韓国・中国	訪中事業準備、集中講義及び留学生指導	2014/6/29	2014/7/3	基盤教育経費
教授	向山 恭一	韓国・中国	訪中事業準備、集中講義、及び留学生指導	2014/6/29	2014/7/3	基盤教育経費
教授	鈴木 賢治	フランス	第9回残留応力に関する欧州会議に参加、研究発表	2014/7/5	2014/7/13	科研費基盤研究（C）
教授	柳沼 宏寿	オーストラリア	InSEA2014（国際美術教育学会）に参加	2014/7/5	2014/7/12	科研費基盤研究（C）
教授	佐藤 亮一	米国	2014アンテナ伝搬に関する国際シンポジウムで資料収集	2014/7/6	2014/7/12	科研費基盤研究（C）
准教授	中島 伸子	中国	The 23rd Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Developmentに参加	2014/7/8	2014/7/11	科研費基盤研究（C）
教授	伊藤 克美	モンゴル	モンゴル教育大学訪問・視察及び学術交流団結式に出席	2014/7/12	2014/7/15	一般管理費
教授	牛山 幸彦	イタリア	ISEK2014出席及び研究打ち合わせ	2014/7/14	2014/7/22	受託研究費

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	村山 敏夫	イタリア	ISEK2014 国際学会に出席	2014/7/14	2014/7/22	基盤研究経費・基盤教育経費
教授	清水 研作	スペイン	作曲作品の素材収集と演奏者との打ち合わせ	2014/7/21	2014/7/29	基盤研究経費・基盤教育経費
教授	土佐 幸子	米国	学会（AATPとPERC）で発表	2014/7/27	2014/8/9	本人負担
准教授	岸 本功	イタリア	国際会議SFT2014に出席	2014/7/27	2014/8/3	科研費（文科省）（若手B）
教授	佐藤 亮一	オランダ領アルパ島	2014電磁気学の発展的応用に関する国際会議において研究成果を発表	2014/8/2	2014/8/9	科研費基盤研究（C）
准教授	村山 敏夫	中国	健康維持増進に向けた地域資源活用の中国現地調査と研究会に参加	2014/8/10	2014/8/15	本人負担
准教授	興治 文子	アルゼンチン共和国	物理教育国際会議2014 において研究発表	2014/8/15	2014/8/25	科研費（若手B）
教授	五十嵐 久人	中国	2014年アジア大学スポーツ連盟理事会及び総会出席	2014/8/20	2014/8/24	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：中華人民共和国大学スポーツ連盟
教授	堀 竜一	スロヴェニア共和国	第9回国際芥川龍之介学会スロヴェニア大会出席及びフィールドワーク	2014/8/22	2014/8/29	基盤研究経費
教授	牛山 幸彦	韓国	2014日本・韓国大学生卓球交流戦 選手団団長兼女子監督	2014/8/24	2014/8/28	日本学生卓球連盟
教授	郷 晃	ドイツ・オーストリア・チェコ・ハンガリー	International artist Symposium 招待及び美術館取材、授業資料収集	2014/8/27	2014/9/19	渡航費：基盤研究経費・基盤教育経費 滞在費：International artist Symposium 主催者
講師	檜皮 貴子	フィンランド・ドイツ	第2回世界体操祭インフォメーション会議に参加及びドイツ小学校参観	2014/9/3	2014/9/12	公益財団法人 日本体操協会
准教授	石垣 健二	ブラジル	国際スポーツ哲学会への参加及び資料収集	2014/9/4	2014/9/12	科研費基盤研究（C）
准教授	小林 繁子	ドイツ	史料調査	2014/9/8	2014/9/30	学系長等裁量経費（学系奨励プロジェクト）
教授	小林 日出至郎	ギリシャ・トルコ	「ホメロスの運動競技」に関する視察及び研究資料調査	2014/9/10	2014/9/21	科研費基盤研究（C）
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究	2014/9/17	2014/9/29	科研費基盤教育（B），教育活動等支援経費
教授	麓 慎一	ロシア	基盤研究（S）のための調査と史料収集	2014/9/20	2014/9/29	科研費基盤研究（S） 代表者：東京大学 保谷徹
教授	伊藤 克美	ギリシャ	ERG2014に出席、研究発表及び研究打ち合わせ	2014/9/20	2014/9/29	科研費基盤研究（C）
准教授	一柳 智紀	オーストラリア	第4回International Congress of ISCARに出席及び研究発表	2014/9/26	2014/10/4	科研費基盤研究（若手B）
教授	土佐 幸子	米国	ライト州立大学における授業研究プロジェクト執行	2014/10/6	2014/10/16	本人負担

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	興治 文子	ドイツ	電子書籍に関する調査	2014/10/7	2014/10/13	基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	韓国	国際大学スポーツ連盟 (FISU) 理事会に出席	2014/10/13	2014/10/17	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：韓国大学スポーツ連盟
教授	松井 賢二	オーストラリア	平成26年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム	2014/10/19	2014/11/1	独立行政法人 教育研修センター
教授	麓 慎一	米国	在ハワイの日本関連資料に関する調査研究	2014/10/19	2014/10/26	科研費基盤研究 (S)
准教授	前田 洋介	連合王国	助成金課題に関する現地調査及び研究打ち合わせ	2014/10/22	2014/11/4	研究助成 (公財) 国土地理協会
教授	横坂 康彦	オーストリア	西洋音楽史と音楽マネジメントに関する施設見学と事業見学、並びに教材収集	2014/10/26	2014/11/3	基盤教育経費・基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	クロアチア	第7回世界学生ブリッジ選手権大会統括運営管理委員長として出席	2014/10/29	2014/11/9	渡航費：International University sports Federation (FISU) 滞在費：Croatia National University Federation
教授	伊藤 克美	インド	New Trends in Field Theories 出席及び厳密くりこみ群に関する研究の打ち合わせ	2014/10/30	2014/11/8	科研費基盤研究 (C) 研究活動等支援経費
准教授	村山 敏夫	中国	温泉療養指導者養成研修会と中国における地域資源活用の実態調査	2014/11/7	2014/11/13	本人負担
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B (海外) のための調査と史料収集	2014/11/15	2014/11/26	科研費基盤研究 (B) (海外)
教授	高橋 桂子	米国	2014NCFR学会に出席及び発表	2014/11/17	2014/11/22	科研費基盤研究 (C)
准教授	石垣 健二	台湾	台湾運動哲学会への参加及び資料収集	2014/11/21	2014/11/25	科研費助成事業 (基金) 基盤研究 (C)
教授	土佐 幸子	インドネシア	2014世界授業研究会出席及び高校物理教育研究	2014/11/22	2014/11/29	科研費応募支援経費
教授	伊野 義博	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/5	本人負担
准教授	杉村 桃子	ニュージーランド	43rd TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM2014出席およびニュージーランド現地視察参加	2014/12/1	2014/12/5	基盤研究経費
教授	宮菌 衛	中国	北京師範大学実験小学と附属新滬小学校の授業研究交流・異文化交流	2014/12/1	2014/12/4	基盤教育経費 基盤研究経費
准教授	向山 恭一	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/8	基盤教育経費
准教授	中島 伸子	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/8	基盤教育経費 基盤研究経費
教授	相庭 和彦	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/8	基盤教育経費
准教授	雲尾 周	中国	北京聯合大学ならび到北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/8	基盤教育経費

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	杉澤 武俊	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/1	2014/12/8	基盤教育経費
准教授	足立 幸子	米国	Literacy Research Association 年次大会に出席	2014/12/2	2014/12/7	科研費基盤研究 (C)
教授	小林 日出至郎	中国	北京聯合大学ならびに北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2014/12/2	2014/12/8	基盤教育経費
教授	柳沼 宏寿	オランダ・ベルギー・フランス	地域芸術研究 (古美術研究旅行) 学生引率のため	2014/12/9	2014/12/18	基盤教育経費・教育活動等支援経費
教授	橋本 学	オランダ・ベルギー・フランス	地域芸術研究 (古美術研究旅行) 学生引率のため	2014/12/9	2014/12/18	基盤教育経費
教授	麓 慎一	連合王国	科学研究費補助金基盤B (海外) のための調査と史料収集	2014/12/14	2014/12/21	科研費基盤研究 (B) (海外)
准教授	田中 咲子	ギリシャ・フランス	科研「パルテノン神殿の造営目的に関する美術史的研究ーオリエンタル美術の受容と再創造の検証」に関する調査	2014/12/19	2014/12/28	科学研究費補助事業基盤研究 (A)
教授	八坂 剛史	スイス	国際バレーボール連盟 コーチ委員会会議に出席	2015/2/1	2015/2/5	国際バレーボール連盟
准教授	入山 満恵子	米国	International Technology & Persons with Disabilities Conference 参加	2015/3/3	2015/3/8	渡航費：基盤養育経費・基盤研究経費 滞在費：本人負担
教授	笠井 直美	タイ王国	科研費 (基盤C) に関する調査及び打ち合わせ	2015/3/10	2015/3/15	科研費基盤研究 (C)
教授	高木 幸子	韓国	小・中学校におけるICTを活用した授業の観察	2015/3/14	2015/3/18	科研費基盤研究 (B) (代表：教科書研究センター研究部長 伊勢呂裕史)
教授	土佐 幸子	米国	ライト州立大学における研究プロジェクト執行	2015/3/14	2015/3/25	科研費応援支援経費
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B (海外) のための調査と史料収集	2015/3/14	2015/3/25	科研費基盤研究 (B) (海外)

○学術交流 (研究者受入れ)

職名	氏名	所属	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	修 斌 (シュビョン)	中国海洋大学	研究会出席及び研究打ち合わせ	2014/10/3	2014/10/6	科研費 (挑戦的萌芽) 代表：麓慎一
准教授	趙 成国 (チョウセイコク)	中国海洋大学	研究会出席及び研究打ち合わせ	2014/10/3	2014/10/6	科研費 (挑戦的萌芽) 代表：麓慎一
講師	楊 蕾 (ヤンレイ)	山東師範大学	研究会出席及び研究打ち合わせ	2014/10/3	2014/10/6	科研費 (挑戦的萌芽) 代表：麓慎一
学芸員	オチャンヒョン	韓国国立民族博物館	研究会出席及び研究打ち合わせ	2014/10/3	2014/10/6	科研費 (挑戦的萌芽) 代表：麓慎一

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「学びをつなぐ力を高める授業－2年次研究－」の下で、指定研究授業（18回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から2,000名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要第71集 学びをつなぐ力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（Fねっと+）」（年4回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生15名、5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生77名、9月8日～12日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生38名、6月2日～13日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、大学院生、別科生38名 10月27日～11月8日）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

a. 小中9か年を見通した教育活動

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を図る。

b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
- ・展覧会での特別支援学校生徒作品の展示。

c. 異文化交流活動

- ・平成26年5月21日～24日に、新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大実験小学から校長をはじめ、計7名の職員が来校。学習参観と教育協議会を開催。音楽や図画工作等を対象とした芸術教育が協議の中心となった。
- ・平成26年12月1日～4日の行程で、校長及び当校教職員1名が、新潟大学の訪問団の一団として交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学を訪問。教職員の教育フォーラムを開催し、情報教育及び英語教育の協議を行った。
- ・平成27年2月5日～6日に、北京師範大学珠海分校から副校長をはじめ、計12名の職員が来校。学習参観と教育協議会を開催した。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・道徳や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。また、初等教育権空海において授業を公開し、研究協議会を開催した。
- ・学校保健委員会において、新潟大学医歯学総合病院・森田 由香助教より「学校保健にかかわる耳鼻咽喉疾患」の演題で講演いただいた。
- ・児童会保健委員会と連携して、感染予防の啓発活動を行った。
- ・体育や特別活動等の時間を活用して、養護教諭の協力を得て学級担任が授業を実施した。

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県読書大会，新潟県書初大会など各種大会入賞多数
- ・第45回ジュニア展，第10回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール最優秀賞受賞
- ・第60回青少年読書感想文コンクール学校図書館協議会賞，第64回全国小・中学校作文コンクール優良賞受賞
- ・いきいきわくわく科学賞2015新潟県教育長賞受賞
- ・第50回新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数

⑥ その他

- ・当校教員の学部授業への参加：6名8回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：11名43回
- ・教員研修の受入：初任者研修2回，新潟市教職員研修1回
- ・視察受け入れ：10回（青森，熊本，鳥取，山形，石川，東京，京都より）

(2) 研究会，講演会の開催

① 平成26年度附属新潟小学校中間検討会

- 日時 2014年9月30日（火）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業 －2年次研究－」
- 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約85名

② 平成26年度初等教育研究会

- 日時 2015年2月5日（木）・6日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「学びをつなぐ力を高める授業 －2年次研究－」
- 内容 CCT・公開授業・全体会・シェアリングタイム・フォーラム・シンポジウム
フォーラム1「附属新潟式学級力フォーラム」：
講師 早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之
フォーラム2「附属新潟式学習スキルフォーラム」：
講師 新潟大学教育学部 准教授 一柳 智紀
フォーラム3「附属新潟式情報リテラシーフォーラム」：
講師 東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也
シンポジウム「変化の激しい社会を生き抜く子どもを育成するための授業づくり」
～次期学習指導要領を見据えて～
シンポジスト 白梅学園大学 子ども学部 教授 無藤 隆
国立教育政策研究所 中等教育研究部 総括研究官 白水 始
当校研究主任 金 洋輔
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,500名（延べ約2,050人）

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第72集 学びをつなぐ力を高める授業 －2年次研究－』（年1回発行）
- 『授業の研究（Fねっと+）』（第190号，第191号，第192号，第193号：年4回発行）
年間テーマ「学びをつなぐ力を高める授業Ⅱ」
毎号の特集「資質・能力を育むこれからの授業づくり」「教師と子どもでつくる学級風土」「わかる・できる授業づくりにICT活用を」
「対話で深まる子どもの学び」

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・金 洋輔『みんなが主役！わくわくファシリテーション授業』，2013年12月（新潟日報社）
- ・菅原 香代「合意形成のプロセスに言語活動を適切に位置付けた学級会の授業づくり」，『初等教育資料』，2013年8月（文部科学省初等教育局教育課程課）
- ・菅原 香代「校内研修のイノベーション『今こそ全校体制で学級経営を』」，『授業&学級統率力』2015年9月（明治図書）
- ・菅原 香代「個々の願いを大切にできる少人数学級レストラン給食をしよう ―低学年複式学級―」，『道徳と特別活動』2015年9月，（文溪堂）
- ・剣 仁美「道徳と私の長い道行き」，2015年2月（福井大学，2015実践研究福井ラウンドテーブル）
- ・平井 涼「21世紀型学力をはぐくむ理科授業」，「初等理科教育」電子版2015年4・5月号（日本初等理科教育研究会）
- ・片山 敏郎「小学校でのICTレボリューション ～タブレット活用の成功の要件～」，平成26年4月27日，（iTeachersカンファレンス 2014 Spring ～教育ICT、成功への分岐点～）
WEB：<http://www.iteachers.jp/#!event140427/c1kch>
- ・片山 敏郎「児童生徒の資質・能力を高めるICT活用授業 ～1人1台の情報端末を「思考ツール」として活用する～」，平成26年5月21日，（教育ITソリューションEXPO）
WEB：<http://www.edix-expo.jp/seminar/ES/ES-2/>
- ・片山 敏郎「ICT活用における附属学校の役割―先端技術の活用・指導法開発・人材開発―」，平成26年6月7日（New Education Expo）
WEB：<https://edu-expo.org/seminar.php?event=2014&hall=T#theme>
- ・片山 敏郎「情報端末一人1台時代に向けて」，平成26年7月15日（新潟市江南区「しゃべり場」）
- ・片山 敏郎 授業提供，平成26年8月9日（新潟学びの会「学び育ち合う授業を考える」授業ビデオカンファレンス）
- ・片山 敏郎「情報リテラシーの育成を目指した指導法の開発―小学校段階での総合的な学習における事例―」，平成26年8月17日（日本デジタル教科書学会，Development of teaching methods aimed at the development of information literacy）
WEB：<http://society2014.js-dt.jp/>
- ・片山 敏郎「デジタル教科書と情報リテラシー」，平成26年9月27日（教育メディア学会）
- ・片山 敏郎「タブレット端末を活用した授業づくりを考える～教科の学力と情報リテラシーを共に高める授業を目指して～」，平成26年10月17日（山形県教育センター研修講座）
- ・片山 敏郎「これからの時代に求められる資質・能力とデジタル教科書・教材」，平成26年10月20日（日本図書教材協会 ICT活用に関する研修会）
- ・片山 敏郎「これからの時代に求められる資質・能力と情報端末を活用した授業」，平成26年11月（公孫会支部ICT研修会）
- ・片山 敏郎「デジタル思考ツールの果たす役割」，平成27年1月10日（ロイロノートユーザー会）
- ・片山 敏郎「“使われないIT”を学校に生まない5つの視点 ―附属新潟小学校 片山敏郎教諭―」（取材記事），「教育IT」平成26年7月（“TechTargetジャパン”教育IT）
<http://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/1407/08/news02.html>
- ・片山 敏郎「教育のICT化のこれから」，「Fashionista」（アライドテレシス広報誌）

③ 研究指導

- ・片山 敏郎 卒業研究助言 新潟大学国語科小久保研究室学生「ICTを活用した国語の授業づくり」，平成26年8月
- ・片山 敏郎 研究員指導・助言 名古屋市教育研究員 名古屋市立天白小学校 林 一真「自分の考えを分かりやすく伝えることができる児童の育成 ―重要な情報を判断し、伝える内容を構成する活動を通して―」，平成26年8月15日

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」の推進

ア 研究の内容

生徒が状況に応じて使えるようになっている個々の思考操作を「思考のすべ」と定義し、「思考のすべ化」を図るために、全教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動において、実践研究を行う。

<今年度研究で目指す生徒の姿>

重点① それぞれ状況に応じて個々に思考操作を用いて、課題を解決していく姿

重点② 自分の考え方についての自覚を深め、価値付けることができる姿

<目指す姿を実現するための三つの視点>

視点A：主に授業づくりに関わって

視点B：主に生徒の「学び」の振り返りに関わって

視点C：仲間との関わりに関わって

イ 研究の実際

重点①の実現に向けて

<視点Aより>

- ・ 様々な見方・考え方が触発され、それぞれの解釈や、解釈に至った理由を比べることで、課題解決が図られるような状況の設定での授業実践

<視点Cより>

- ・ 異なる立場や考え方の仲間と、意見の違いに着目できる環境を整備し、その対立点の背景や、それに関わる事実を検証することで、対立点を解消して課題解決に結び付ける話合い

重点②の実現に向けて

<視点Aより>

- ・ 課題解決後に振り返ることができるように、課題解決の過程における思考操作を可視化する環境の整備

<視点Bより>

- ・ 各授業において可視化した思考操作を蓄積し、単元終了後に、振り返りの場を設定し、一枚ポートフォリオなどを用いて、自己評価・相互評価をしたりする授業実践
- ・ 生徒自身が自らの思考操作を的確にモニタリングし、その有効性の実感・納得させるために一年生の総合的な学習の時間「思考の時間」において、モニタリングに焦点を当てた時間を学期に一回（二時間）、一年で計三回帯単元として位置付け実践

<視点Cより>

- ・ 考え方を客観的に捉えさせるために、仲間と交流する活動の組織

ウ 成果と課題

<成果>

- それぞれ状況に応じて個々に思考操作を用いて、課題を解決していく姿が見られたこと
- 自分の考え方についての自覚を深め、価値付けることができたこと

<課題>

- 今後、それぞれの授業において、状況に応じて個々に用いた思考操作が、各教科に転移されているのかということのみとり、「思考のすべ化」が図られているのかを検証していく。そのために、思考力を軸とした教育課程を意図的・計画的に編成する必要がある。

○ 「思考のすべ化」を図るための仲間との関わりに関わる手立てを明らかにしていく必要がある。

② 学部と連動した活動

a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

b. 学部教員および学生との共同研究

ア. 自律を育てる英語指導モデル―見直し振り返り用プログレスカードとポートフォリオを用いて
教育学部 松澤伸二 教授 ・ 英語科 上村慎吾

イ. 我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究

教育学部 高木幸子 教授 ・ 技術・家庭科 古山祐子

c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 春の授業研究会では、協議会において、13名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、10名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、5名の学部教員の方々から指導をいただいた。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

11月26日（水）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日、受入人数

a. 春期教育実習 6月 2日（月）～13日（金） 29人（うち母校実習5）

b. 2年次観察実習 9月 8日（月）～12日（金） 104人

c. 秋期教育実習 10月27日（月）～11月7日（金） 22人

（うち人文学部1，青陵大学1）

d. 1年次入門実習 年間3回合計3日間 12人

② 特色ある実習内容

a. 春期教育実習，秋期教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。

b. 2年次観察実習において，同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

a. 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも，学部教員や行政関係者が参観した。また，すべての教科において，公立校の教員も授業を参観し，協議会にも参加した。

b. 9月29日（月）国語，社会，数学，理科，音楽，美術，体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合学習の各教科，取組において，学部教員や行政関係者，公立校の教員とともに，中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

c. 1月（各教科で日時を設定）数学，美術，家庭科，英語，道徳の各教科，取組において，学部教

員や行政関係者，公立校の教員とともに，授業研究を行った。

② 平成26年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」）

a. 期 日 10月16日（木）

b. 内 容 授業公開（国語，社会，数学，理科，保健体育，英語，特別活動，道徳，総合学習）
授業協議会

c. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計 434 人

③ その他

a. 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修1）

ア. 期 日 6月3日（火）

イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 中学校19人，特別支援学校4人
下越教育事務所指導主事，当校職員

ウ. 内 容 授業公開（各教科），研究協議，講話

b. 初任者研修授業研修協力校（授業参観研修3）

ア. 期 日 10月21日（火）

イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 小学校 8人

ウ. 内 容 授業公開（英語），研究協議，講話

c. 学校視察の受け入れ

・ 福井県福井市立光陽中学校 教諭2人（2月13日）

(4) 研究報告等

① 研究誌

a. 研究紀要 「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」（2年次）

b. 公開授業案 （10月16日発行）

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2013年10月～2014年9月>

- ・ 上村 慎吾 研究発表 「自律を育てる英語指導モデル
ー見通し振り返り用プログレスカードとポートフォリオを用いてー」
関東甲信越英語教育学会 第38回千葉研究大会（8/23）

7.3 新潟大学教育学部附属特別支援学校

1 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童（授業交流）
- ・小学部5，6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・新潟市内小・中学校主催支援会議への参加 22校延べ80回
- ・読み書きに困難がある児童についての事例報告会の実施

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加，2人
- ・学生ボランティアの登録：登録58人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会10人，特別支援教育研究会40人
すなやま祭34人，学部・学級行事26人

【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会(同窓会)の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
(8月23日開催。高等部生徒30，卒業生59，卒業生保護者20，旧職員5人
現職員29人参加)
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定
(1月31日開催。卒業生64人，卒業生保護者29人参加)

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ(すなやまの家を会場に提供)
延べ約2,900人利用
- ・新潟市障がい者の進路を考える会体験会(9月13日)
児童生徒，保護者，各福祉事業所・各校担当職員，当校職員合わせて360人参加

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生24人週1回定期支援，2人不定期支援
- ・教育相談：不定期は多数
- ・研修支援：通級指導教室説明会の実施(3月27日)

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- | | |
|---------------------|-------------|
| ・新潟市立小針小学校校内研修講師 | 大竹 嘉則 副校長 |
| ・新潟市立荻川小学校校内研修講師 | 大竹 嘉則 副校長 |
| ・新潟市学童保育指導員研修会講師 | 水谷 武 教頭 |
| ・新潟市総合教育センター研修会実践発表 | 中野 久美 |
| ・県立教育センター研修会講師 | 廣川 豊士 |
| ・県立佐渡特別支援学校公開講座講師 | 横堀 壮昭 |
| ・県初任者研修講師 | 中村 美紀 |
| ・新潟市立山田小学校校内研修講師 | 伊藤 宏之 |
| ・新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 | 田中健太郎，土田 奈穂 |

- ・新潟市立松浜小学校校内研修講師 古川 優, 古川原未依

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生12人(5月24日, 8月21日, 9月12日)
- ・教育実習生の受入(春期：26人 秋期：25人)
- ・養護教諭特別科1日観察参加実習：39人(12月5日)
- ・介護等体験生の受入(年間10回, 合計320人)

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観(6月17日 20人)

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・すなやま祭(学習発表会)
- ・インターンシップ等(高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定)
- ・修学旅行(中学部3年生, 高等部3年生：東京方面)
- ・校内宿泊学習(全学部実施「すなやまの家」に宿泊)
- ・親子工作教室(小学部PTA)
- ・ミニ運動会(中学部PTA)
- ・スキー・そり教室(全学部)
- ・卒業生を送る会(全学部)

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区PTA研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附連北信越地区研修会上越大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2 研究会, 公開講座等の開催

(1) 研究会

- ・第37回特別支援教育研究会(12月12日開催)
研究主題：子供が学びを深める姿をめざした授業づくり(第1年次)
～単元・題材の楽しさや良さを追究する話し合いを通して～
参加者数：481名

(2) 公開講座

- ・第1回公開講座：4日にわたり4回(6月5日, 19日, 7月3日, 17日)開催
テーマ：「親支援プログラム」
講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授
参加者数：20人

(3) 事例報告会

- ・通級指導教室事例報告会(2月27日開催)
～読み書きが困難な児童に対する通級指導教室での取り組み～
アドバイザー：新潟大学教育学部特別支援教育専修 入山 満恵子 准教授
参加者数：72名

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んできた。その成果により文部科学省から指定延長を許可され、平成27年度まで継続して取り組むこととなった。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間の一貫教育カリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成と保育者の援助の在り方がどうあるべきかについて、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校低学年との「異年齢協働型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- | | | |
|-----------|----------|--------------------------------|
| a 入門教育実習 | (1年生 30名 | 4月30日、7月1日、10月9日) |
| b 春期教育実習 | (4年生 2名 | 6月 2日～13日) |
| c 観察参加実習 | (実習生 なし) | |
| d 秋期教育実習 | (実習生 なし) | |
| e 留学生の園訪問 | (留学生 3名 | 1月19日 インフルエンザによる
学年閉鎖のため中止) |

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」も行っている。

- 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- 観客型連携による相互訪問
- 中学生の保育参観、遊びの紹介、おにぎりプロジェクト
- 5歳児の小学1・2年生との合同活動(社会創造科)
- 研究授業・保育の相互参観
- 授業・保育交流

④ 学部との連携

- 教育研究協議会での公開保育・協議会や園内研究保育にかかわり、学部教員からの指導・助言を受ける。
- 校園合同研究にかかわる実態アンケート等の集約・評価における連携

⑤ 北京師範大学南奥実験学校等との交流

北京師範大学珠海分校・南奥実験学校との交流会 2月5日

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（10名 11月25日～26日）

⑦ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室
 こんにちはの会
 お花見散歩

11月：秋の家族参加日
 作品展

12月：親子餅つき大会

5月：親子バス遠足（自然科学館）

6月：プール開き
 家族参加日（土曜参観）

1月：お正月お楽しみ抽選会
 かるた大会

7月：七夕会

そり遠足（越後丘陵公園）

2月：豆まき会

9月：校園合同運動会
 秋の交通安全教室

3月：ありがとうの会（お別れ会）

10月：悠久山探検遠足

（2）研究会、講演会の開催

① 平成25年度教育研究協議会

ア 開催日 平成26年5月28日（水） 幼・小・中合同教育研究協議会

イ 会場 附属長岡校園各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程調査課教科調査官 澤井 陽介 様

演題 「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育む授業づくり

～小学校社会科の授業改善を例に～」

〈講演会② 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 十文字学園女子大学理事 お茶の水女子大学名誉教授 内田 伸子 様

演題 「子どもの創造的想像力を育む教師の役割～対話で拓ける子どもの学び～」

※ 講演会①②は、同時開催。参会者が選択して聴取。

② 幼稚園視察等の受入

視察（幼小連携について） 広島大学附属三原校園（2月）

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を10名受け入れ（11月）

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度より3年間、文部科学省研究開発指定を受け、24年度研究成果のまとめ、発表した。その成果が認められ研究開発指定の3年間の延長となった。これまでの指定を含め、平成25年度の研究開発校は計34件、98校となる。その中で延長指定を認められたのは附属長岡校園のみである。第2次研究の研究開発課題は『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」である。研究の概要は幼・小・中12年間で5つの「ステージ」に構成し、各教科と新教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫教育カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを提案することである。本年度は第2次研究第2年次である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

- ア 小・中接続期に焦点を当てたカリキュラム開発と小・中の各教科の指導内容の位置付けの検討を通して、幼・小・中12年間の学びをつなぎ、生かす一貫カリキュラムの開発に取り組む。
- イ 子ども自らが、主体的に他者との関わりを求め、互恵的にかかわりながら「社会的知性」としての資質・能力を働かせるための「協働型学習」の単元を構成する視点を明確にする。
- ウ 「社会創造科」の内容を見直し、異校種間を含めた異学年での授業や地域の人材の活用の仕方など、多様な「協働型学習」の在り方と適切な評価方法を開発する。

これらのことを課題として研究を進め、5月28日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。

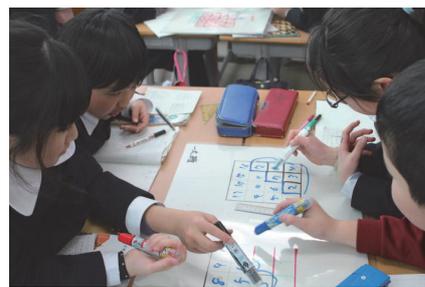
- ・文部科学省研究開発学校実地調査（10月2日）
- ・鈴木賢治学部長、高木幸子副学部長、柳沼宏寿副学部長による研究視察（2月16日）



教育研究協議会 全体発表
「社会的な知性を培う」



第2ステージ:社会創造科(年長・1年)
「つくって あそんで なかよしに」



第3ステージ:算数科(4年)
「形の中の広さ」

② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習①サマースクール（1年生12名 7月 3日～ 7月 4日）
入門教育実習②栖吉川フェスティバル（1年生15名 6月24日）
入門教育実習③校内マラソン記録会（1年生12名 9月29日）
- b. 観察参加実習（2年生 60名 9月 8日～ 9月12日）
- c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生 24名 6月 2日～ 6月13日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生 24名 10月27日～11月 7日）

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、職員の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

b. 中学校との連携

■「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流

- ・小5年と中1年「持続可能な地域（長岡）を目指して」
- ・小6年と中1年「大手通のこれからを考えよう」



第4ステージ:合同調査活動



第4ステージ:合同授業

④ 大学・学部との連携

a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践

- ・新潟大学教育学部 森田龍義 名誉教授 3学年, 4学年対象「科学教室」

11月11日

b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

2名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。

- ・新潟大学教育学部 一柳智紀 准教授 5年2組 道徳「言葉について考えよう」
- ・新潟大学教育学部 加藤茂夫 教授 6年1組 外国語活動「きこえる英語」

c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科の学生2名から8回にわたって体操の指導を受け、成果を11月29日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5、6年生のスノースクール（2月）では、体育科・山崎研究室の学生12名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（96%）。

6月 9日（月）



鈴木学部長の歓迎を受けた大学訪問

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。
(6月小学校初任者8名、9月中学校初任者6名)
免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力(国語、算数 教諭2名担当)

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。(社会、算数、理科、図工)
長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。(理科、算数)

c. 公立学校との連携

小千谷市立小千谷小学校校内研修会に講師として参加(社会1名)
長岡市立阪之上小学校校内研修会に講師として参加(生活1名)
長岡市立上川西小学校校内研修会に講師として参加(生活1名)
柏崎市立日吉小学校校内研修会に講師として参加(算数1名、社会1名)
見附市学校教育委員会主催出前授業に講師として参加(算数1名)
魚沼市教育振興会に講師として参加(図工部会1名)
小千谷市教育研究協議会に講師として参加(芸術部会1名)
会津美里町夏季研修会の講師として参加(幼・小・中連携1名)
公立校教員対象の各教科領域別ミニ講座研修会の講師(各教科領域1～2回講座開催)

⑥ 中国との交流

- ・北京師範大学珠海分校、南奥実験校視察 3校園代表小林日出至郎校長
平成26年12月3日(水)～8日(月) 歓迎会開催
- ・北京師範大学珠海分校、南奥実験校との交流会
平成27年2月5日(木)

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パクンパワーボックス」(食育に関する質問箱)の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

- ・1年生 学級活動「野菜を知ろう」11/19, 12/2
- ・3年生 学級活動「食べ物の三つのはたらき」10/21, 10
- ・4年生 学級活動「食べ物の仲間」5/20, 22
「食べ物のひみつ」5/23, 24, 26, 28
- ・5年生 学級活動「おやつ」10/22, 23
- ・6年生 学級活動「バランスのよいバイキングでの食事」2/16

c. 栄養教諭による講話等

- ・毎月1回程度 中学生への食育講話
- ・毎月19日の「食育の日」に食育放送(給食時)
- ・学級担任への食育資料提供
- ・小学校、幼稚園の給食試食会での保護者への講話
- ・教育実習生(別科生)への講話



学級活動で食育の推進

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成26年度初等教育研究協議会事前打合せ

- a. 日 時 2014年 5月 9日 (金)
- b. 会 場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究 第2年次)
- d. 内 容 全体会(研究全体概要の説明) 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成26年度初等教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日 時 2014年 5月28日 (水)
- b. 会 場 附属長岡校園(幼稚園、小学校、中学校)
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」(第2次研究 第2年次)
- d. 内 容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」
 - 講演

十文字学園女子大学理事, 特任教授 お茶の水大学名誉教授
内田伸子 氏

演題「子どもの創造的想像力を育む教師の役割

～対話で拓ける子どもの学び～」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井陽介 氏

演題「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育む授業づくり～小学校社会科の授業改善を例に～」

- e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等
約 1200名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催 北信越地区総会・実践活動協議会 上越大会

- a. 日 時 2014年 9月25日(木) 副校園長会(市内巡検, 研修会・協議会等)
9月26日(金) 教育活動・授業公開, 協議会, 全体会・総会等
- b. 会 場 上越教育大学附属学校園(幼稚園、小学校、中学校), 「デュオセレッソ」
(*副校園長会 春日山城址, 上越教育大, 上越妙高駅, 「赤倉ホテル」)
- c. テーマ 「今, あらためて考える附属学校園の魅力とPTA活動
～附属学校園の魅力とは～」
- d. 内 容 保育・授業公開、協議会および全体会・総会, 情報交換会・懇親会
- e. 参加者 約300名 *校長, 副校長, 教諭, PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第2次研究 第2年次』(年1回発行)
- b. 『子どもと授業』(年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名)
 - 第73号 特集 社会の変化に対応する資質・能力を育む授業づくり
 - 第74号 特集 聴き合う関係を育む「協働型学習」

② 教員の著書・論文・研究発表等（略）

（４）その他

① 危機管理に対する活動

- a. 大規模災害を想定した引き渡し訓練
保護者へ引き渡しマニュアルの説明
引き渡し訓練の実施
- b. 不審者侵入対応避難訓練（10年目）
職員の対応訓練と児童の避難訓練
（指導・協力：長岡警察署生活安全係）
- c. 緊急電話連絡・メール配信訓練
- d. 水泳授業監視員の配置
- e. インストラクターによる着衣泳指導

② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

- a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業
「ふぞく百年の森」整備作業、校園インディアカ大会

⑤ 学習環境の整備

- a. 普通教室にエアコン設置（リース契約による設備整備
諸経費は保護者負担による）



児童引き渡し訓練



インストラクターによる着衣泳



「ふぞく百年の森」整備作業

7.6 附属長岡中学校

- (1) 平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」を開発している。この研究は、子どもと子ども、子どもと地域の人が共に学びを創り上げる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含め他各教科・領域を通して「持続可能な社会」の形成者をはぐくむことを目指して、第2次研究のまとめの段階に入っている。

<社会創造科>

「社会的な知性」を「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」の三つの資質・能力として捉え、それを効果的にはぐくむのに必要不可欠な教科として「社会創造科」をカリキュラムに位置付けている。そこでは、校園内の異年齢の児童生徒はもちろん、企業、NPO、行政、地域の専門家の方々と互恵的にかかわりながら、身の回りや地域にある問題や課題について調べ、解決方法を考え、実際に行動し評価する活動を展開している。

- (2) ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本校では、「持続可能な社会の在り方」をテーマに、社会創造科に置いて、郷土長岡と大都市東京を比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を沖縄に広げた同様の追究学習（第2学年）に取り組んでいる。生徒が設定した視点を元に、郷土と他地域とを比較し、地域の実態や課題を捉え、その解決方法を考えることを通して、テーマに対する認識を深めている。

2 教育研究協議会

- (1) 平成26年度教育研究協議会

① 期 日 平成26年5月28日（水）

② 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）

③ テーマ 「社会的な知性を培う」（第2次 第1年次研究）

④ 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業）、各教科、領域

講演会・演題 「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育む授業づくり
～小学校社会科の授業改善を例に～」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 澤井 陽介 氏

・演題 「子どもの創造的想像力を育む教師の役割～対話で拓ける子どもの学び～」

講師 十文字学園女子大学理事・特任教授 お茶の水女子大学名誉教授 内田 伸子 氏

⑤ 参加者 県内外教員、学生、学部教員、教育委員会指導主事 等

校園全体で、約1200人

3 地域教育委員会、大学との連携を図った教員研修への協力

- (1) 市教育委員会が行う教員の指導力向上を目指す取組への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」や市教育センター主催研修講座に対し、授業公開や講師派遣を行った。

- (2) 大学との連携を図った現職教員研修への協力

教員免許更新講習における講座「学びをつなぎ、学びを生かす学習指導」において、大学教員との連携を図り、ゲストスピーカーとして職員を派遣し、実践発表を行った。

- (3) 大学国際化と連携し、毎月1回留学生数名を招き英語で議論するなどの授業を行っている。グローバル人材育成にも特色を出している。

8. 外部資金

8.1 科学研究費補助金

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っている。

平成26年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
25	基盤研究(B)	麓 慎 一	帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について
26	基盤研究(B)	伊 野 義 博	掛け合い歌のメカニズムを応用した音楽学習過程の研究ーアジアの民俗音楽調査をもとに
22	基盤研究(C)	伊 藤 克 美	厳密くりこみ群によるゲージ論の研究
23	基盤研究(C)	小林日出至郎	『イリアス』の運動競技における精神性に関する研究
23	基盤研究(C)	石 垣 健 二	「身体教育(体育)によって育てる間身体性」の解明
23	基盤研究(C)	宮 蘭 衛	出前授業方式による学生の環境教育実践力育成ー「多国間環境問題解決型授業」を事例に
23	基盤研究(C)	張 間 忠 人	可換代数における完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
24	基盤研究(C)	山 崎 健	長距離ランニング中の動作変容にかかわるモデルの検討
24	基盤研究(C)	大 庭 昌 昭	高強度領域における主観的努力度の変化が平泳ぎパフォーマンスに及ぼす影響
24	基盤研究(C)	藤 林 紀 枝	物理学、化学の概念と連結した火山および火成岩の学習プログラムの基盤づくり
24	基盤研究(C)	本 間 伸 輔	英語・日本語数量詞句の統語構造、意味・談話的性質、作用域特性に関する理論的研究
24	基盤研究(C)	中 島 伸 子	老化現象における心身の相互性理解の発達過程
24	基盤研究(C)	高 木 幸 子	教師としての成長を授業実践力の視点から把握する実証的方法に関する研究
24	基盤研究(C)	小 久 保 美 子	表現重視の読むことの学習方略が及ぼす読解力育成への影響に関する実証的・実践的研究
24	基盤研究(C)	工 藤 起 来	アシナガバチ亜科における多女王制社会の進化：生態学的視点からの解明
25	基盤研究(C)	佐 藤 亮 一	レーダポラリメトリを用いた大地震に伴う津波・洪水時の水位推定と被災住宅の識別
25	基盤研究(C)	高 橋 桂 子	Gatekeeper概念を組み込んだ行動変容理論による父親の家事参加行動の研究
25	基盤研究(C)	杉 澤 武 俊	心理学研究における統計的検定手法の見直しと改善
25	基盤研究(C)	神 村 栄 一	パチンコ遊技嗜癖の類型に応じたモジュール介入付き集団認知行動療法の効果検討
25	基盤研究(C)	岡 野 勉	初等数学の教育内容構成に関する実験的・歴史的研究ー分教教授の歴史と構想
25	基盤研究(C)	福 田 学	言語活動という観点からみた学級の「荒れ」に関する現象学的研究
25	基盤研究(C)	長 谷 川 敬 三	等質空間上の概複素構造と共形幾何学的構造についての研究
25	基盤研究(C)	下 保 敏 和	偏光を利用した反射分光分析法の開発
26	基盤研究(C)	飯 野 由 香 利	ヒューマンファクタを考慮した学校における住環境の改善と環境制御体制の構築
26	基盤研究(C)	志 賀 隆	博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及
26	基盤研究(C)	柳 沼 宏 寿	スクリーンリテラシーの日豪比較研究～多文化主義政策の「学びの構造」分析を通して～
26	基盤研究(C)	足 立 幸 子	読者反応理論に基づく国際標準を反映した児童・生徒・教員用読書力評価パッケージ開発
26	基盤研究(C)	笠 井 直 美	性犯罪被害対策及び人工妊娠中絶防止の緊急避妊薬情報を含む学校での性教育方法の検討
26	基盤研究(C)	有 川 宏 幸	合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究
26	基盤研究(C)	鈴 木 賢 治	粗大粒を持つ部材のX線応力評価の確立
24	若手研究(B)	田 中 誠 二	占領期日本の学校における感染症対策に関する実証的研究
24	若手研究(B)	山 口 智 子	米粉食品の調理加工性と食味の向上をもたらす機能水の解明
24	若手研究(B)	山 本 啓 介	中世後期和歌会関連古記録についての基礎的研究
24	若手研究(B)	一 柳 智 紀	対話的な相互作用を促す教師・学習者によるリヴオイスニングの検討
24	若手研究(B)	古 田 和 久	社会階層と学校適応に関する国際比較研究
25	若手研究(B)	興 治 文 子	明治中期の理科筆記が紐解く日本型科学教育の源流と現代への具現化
25	若手研究(B)	前 田 洋 介	エリア型コミュニティの地理的不均等発展に関する研究
25	若手研究(B)	岸 本 功	超弦の場の理論における数値的手法に基づく古典解の解析
26	若手研究(B)	檜 皮 貴 子	体づくり運動における「ほぐし」と「体力向上」の融合型教材試案
26	若手研究(B)	岡 田 祥 平	音声学的視点を踏まえた現代日本語文法記述の精緻化の試み
25	挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	東アジアにおける水産業の形成と変容
25	挑戦的萌芽研究	小 堀 彩 子	教師の概念変化を促す手法を用いたバーンアウト予防プログラムの開発
25	研究活動スタート支援	古 田 徹 也	文化と啓蒙の視点を軸とするウィトゲンシュタインの倫理学の解明

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成26年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
鎌田 正喜	鎌田 正喜	卒業研究の支援

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成26年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
山口 智子	阿賀町	雪椿及びエゴマを活用した特産品の開発研究
志賀 隆	新潟市	福島潟の植生の現状と埋土種子集団の構成
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
牛山 幸彦	公益財団法人日本卓球協会	繰り返しストロークによる下肢筋疲労評価について
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰後の転帰に関する研究

○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
平成26年度	無し	

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成26年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
山口 智子	有限会社小田製陶所	蒸しかまどによる米飯の評価研究
山口 智子	坂井製粉製麺有限会社	新潟県特産雪椿種子オイルと米粉を使用した乾麺の試作と評価

(巻末資料)

平成26年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	109	100	50	46
		教育心理学専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	604	562	158	139
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
		美術教育専修					
	保健体育専修						
推薦入学	40	56	56	40	40		
小 計	220	769	718	248	225		
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	168	107	49	47	
生活科学課程 生活科学コース		15	66	65	23	17	
健康スポーツ科学課程		30	159	137	32	31	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	73	72	27	27	
	造形表現コース	20	50	26	22	16	
	書表現コース	15	55	53	16	16	
	小 計	60	178	151	65	59	
合 計		370	1,340	1,178	417	379	

●平成26年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	11 (5)	11 (5)	9 (4)	8 (4)
	教育心理学分野					
	臨床心理学分野		6	6	3	3
	特別支援教育分野		3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)
	幼児教育分野		2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)
	教育実践開発コース	10人	4	4	4	4
	小計	20人	26 (7)	26 (7)	20 (6)	19 (6)
教科教育	国語教育専修	32人	8 (4)	8 (4)	6 (3)	5 (3)
	社会科教育専修		8	8	7	7
	英語教育専修		5	5	5	4
	数学教育専修		3	3	3	3
	理科教育専修		4	4	4	4
	音楽教育専修		8	7	4	4
	美術教育専修		6 (1)	6 (1)	6 (1)	6 (1)
	保健体育専修		9	9	8	7
小計	32人	51 (5)	50 (5)	43 (4)	40 (4)	
合計	52人	77 (12)	76 (12)	63 (10)	59 (10)	

※()内数字は、外国人留学生で内数

平成27年3月卒業(修了)者の就職内定状況

平成27年2月25日現在

(1) 教育学部(教育人間科学部含む)

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程(学校教育課程)	232	25	14	20	136	37	193	15	103	35	153	75.0	75.7	94.6	79.3
学習社会ネットワーク課程	48	2	2	10	1	33	44	10	0	33	43	100.0	0.0	100.0	97.7
生活科学課程(生活環境科学課程)	17	1	0	2	4	10	16	2	4	10	16	100.0	100.0	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	38	10	4	8	4	12	24	7	3	12	22	87.5	75.0	100.0	91.7
芸術環境創造課程	67	8	9	2	15	33	50	2	6	28	36	100.0	40.0	84.8	72.0
▲ 計	402	46	29	42	160	125	327	36	116	118	270	85.7	72.5	94.4	82.6

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	18	1	1	0	9	3	12	0	7	3	10	—	77.8	100.0	83.3
教科教育専攻	27	4	0	1	12	5	18	1	7	5	13	100.0	58.3	100.0	72.2
計	45	5	1	1	21	8	30	1	14	8	23	100.0	66.7	100.0	76.7

(3) 養護教諭特別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別科	45	1	1	6	25	12	43	5	14	9	28	83.3	56.0	75.0	65.1

教育学部附属学校生徒数

26. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	20
	4歳児学級	1	35	35	15
	5歳児学級	1	35	35	27
新潟小学校		12	35 (4年～6年 40)	450	433
	複式学級	3	16	48	48
長岡小学校		12	35 (4年～6年 40)	450	375
新潟中学校		9	40	360	357
長岡中学校		9	40	360	362
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	17
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	29
合 計		57		1,818	1,701

複式学級は外数

備考

附属新潟小学校及び附属長岡小学校については、平成24年度入学児童の1学級定員が40人から35人になり、学年進行により収容定員は順次改訂されます。